三重県埋蔵文化財年報13

昭 和 57 年 度

1983.3

三 重 県 教 育 委 員 会

例　　言

1. この年報は、昭和５７年度における県内の埋蔵文化財保護行政と調査の概要をまとめたものである。

2. Ⅲの緊急調査の現状のうち、２・緊急発掘調査の概要は、それぞれの発掘調査担当者による。

3. 本書の編集は、文化課文化財係埋蔵文化財担当係において行った。

目　　次

Ⅰ　土地利用と埋蔵文化財 …… 1
1.　市町村総合計画（案）等の事前審査 …… 1
2.　民間企業等の開発計画の事前協議 …… 1
3.　国の機関等の開発計画の事前協議 …… 3

Ⅱ　埋蔵文化財保護体制の強化 …… 7
1.　埋蔵文化財整理所 …… 7
2.　文化財パトロール …… 8
3.　埋蔵文化財発掘技術者研修 …… 11
4.　埋蔵文化財担当者の研修 …… 12
5.　文化財保護連絡会議 …… 13

Ⅲ　緊急調査の現状 …… 15
1.　大規模開発事業地域遺跡分布調査 …… 15
2.　緊急発掘調査 …… 16

Ⅳ　調査結果の公開 …… 52
1.　三重県埋蔵文化財展 …… 52
2.　発掘調査報告会 …… 53
3.　発掘遺跡現地説明会 …… 55
4.　保管遺物等の貸出し・写真等の掲載許可 …… 56

付
〔1〕　三重県文化財調査員設置要綱 …… 57
〔2〕　昭和57年度三重県文化財調査員一覧表 …… 58
〔3〕　昭和57年度三重県文化財パトロール実施要項 …… 61
〔4〕　昭和57年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項 …… 64
〔5〕　埋蔵文化財発掘通知・届出一覧表 …… 65
〔6〕　三重県埋蔵文化財認定通知物件 …… 68

Ⅰ　土地利用と埋蔵文化財

1.　市町村総合計画（案）等の事前審査

市町村総合計画及び広域市町村圏計画の策定に際して、埋蔵文化財保護に特に配慮するよう県総務部地方課に指導方を依頼している。その際留意すべき事項は次のとおりである。

基本構想において、(1)　文化財保護の項目の有無

(2)　埋蔵文化財包蔵地一覧表等による現状把握の有無

(3)　遺跡の周知徹底策の明記の有無

2.　民間企業等の開発計画の事前協議

民間企業による各種土地開発事業と埋蔵文化財の保護については、関係諸法令要項等によって方針が定められており、環境影響評価委員会幹事会などで協議を実施している。具体的取り扱いとしては、「文化財保護の指導要項」により関係機関、事業者に協力を求めている。その際の現地分布調査は、当該市町村教育委員会が関係教育事務所の指導をうけて実施し、その調査結果の（写）を県教育委員会に報告することとしている。

各種事前協議一覧

〔環境影響評価委員会幹事会（生活環境部）〕

種　　別	事　業　地	事業面積	会議年月日	備　　考
工場用地造成	久居市新家町、木造町	34,000㎡	58.1.26	
〃	松阪市山室町	165,000	58.2.14	分布調査の実施

〔開発行為事前設計協議（土木部）〕

種　　別	事業場所	面　　積	協議年月日	備　　考
団地造成	四日市々垂坂町	21,661㎡	57.6.28	分布調査の実施

種　　別	事　業　場　所	面　　積	協　議 年月日	備　　考
浄水場築造	多気郡多気町	95,135	57. 7.20	工事中発見の取扱い
運動公園造成	阿山郡阿山町	52,558	57. 7.20	分布調査の実施
ゴルフ場建設	〃　伊賀町	454,008	57. 8.10	工事中発見の取扱い
宅地造成	四日市々川島町　他	278,300	57. 8.20	〃
団地造成	名張市大屋戸	968,107	57. 11. 2	
〃	津市大里川北	120,410	57. 11.27	分布調査の実施
工場用地造成	久居市新家町・木造町	335,800	57. 12.22	〃
ゴルフ場造成	一志郡一志町・白山町	1,323,171	57. 12.24	〃
工場用地	志摩郡磯部町築地　他	64,541	58. 1.11	〃
宅地開発	津市高茶屋小森町	22,383	58. 2.16	工事中発見の取扱い

〔三重県土地利用対策委員会幹事会の協議（企画調整部）〕

種　　別	事　業　場　所	面　　積	会　議 年月日	備　　考
宅地造成	津市大字神戸	399,808㎡	57. 6. 5	
工場用地造成	志摩郡磯部町築地他	67,222	〃 6.15	分布調査の実施
宅地造成	名張市下比奈知	255,385	〃 8.25	工事中発見の取扱い
〃	津市河辺町	244,943	〃 8.25	分布調査の実施
〃	〃　他	126,503	〃 8.25	〃
工場用地	一志郡嬉野町大字天花寺	353,024	〃 10. 6	〃
宅地造成	〃　大字片野		〃	
〃	伊勢市藤里町	44,535	〃 10. 6	〃
〃	津市大字神戸	193,840	〃 12.24	〃 県史跡の現状保存
墓地用地	津市大字半田	53,222	〃 12.24	

3. 国の機関等の開発計画の事前協議

文化課では、年度当初、開発関係行政機関に対し、事業計画の照会をするとともに、事業地内埋蔵文化財の有無を確認している。埋蔵文化財が事業地内に存在する場合には、その取り扱いについて当課と協議するよう申し入れをしている。

今年度、県機関１７件、市町村機関１４件、公団１件であった。

(1) 農業基盤整備事業等

農業基盤整備事業には、県営圃場整備事業をはじめ、団体営圃場整備事業その他があって、これらにかかる埋蔵文化財の保護措置、あるいは発掘調査件数は近年増加の傾向をたどっている。

今年度の県営圃場整備事業を例にとると、事業総面積６３９ha の中で、分布調査の結果、５５遺跡、面積約８２８,２００㎡もの遺跡が所在することが確認された。この結果に基づき再三にわたり耕地第二課、各耕地事務所、各土地改良区と協議を行いできるだけ保存につとめた結果、１１件、１８,４３０㎡の遺跡については、削平部分、水路部分に限り、やむをえず発掘調査を実施した。

事業名	地区	事業面積(ha)	遺跡名	所在地	遺跡面積(㎡)	措置
県営圃場整備	大安東部	31	八幡神社東方遺跡	員弁郡大安町梅戸	12,000	試掘
	大安西部	44	野田丸城跡	員弁郡大安町丹生川久下	9,000	試掘
			丹生川A遺跡	〃	20,000	盛土保存
			丹生川B遺跡	〃	170,000	試掘
	北勢	7	中山A遺跡	員弁郡北勢町中山	450	試掘
			中山B遺跡	〃	650	試掘
	員弁	23				
	東員	34	吉登神社南方遺跡	員弁郡東員町北大社	1,000	地区除外
	八風	30				
	鈴鹿第二	34				
	深溝	19				
	安塚	15	起A遺跡	鈴鹿市安塚町	66,000	本調査4,000㎡

事業名	地　区	事業面積(ha)	遺跡名	所在地	遺跡面積(㎡)	措置
			起B遺跡	鈴鹿市安塚町	16,000	試掘
			起C遺跡	〃	1,200	試掘
	安濃川右岸	34	浄土寺西遺跡	安芸郡安濃町浄土寺	23,000	試掘　本調査430㎡
			村主小東遺跡	〃　川西	30,000	試掘
	津西部	25	井戸A遺跡	津市片田井戸町	9,000	試掘
			井戸B遺跡	〃	600	地区除外
	津南部	24	宮間戸遺跡	津市雲出町	45,000	試掘　本調査2,500㎡
			墓原遺跡	〃	16,000	試掘
			長常遺跡	〃	33,000	試掘
	白山	28	岩脇A遺跡	一志郡白山町岩脇	600	現状保存
			岩脇B遺跡	〃	600	試掘
			岩脇C遺跡	〃	3,000	試掘　本調査500㎡
			市場A遺跡	〃　市場	800	現状保存
			市場B遺跡	〃　〃	600	試掘
			市場C遺跡	〃　〃	1,200	現状保存
	三雲東部	14				
	白山西部	8				
	豊地	49				
	東黒部	30	南山遺跡	松阪市土古路町	120,000	盛土保存
			出間A遺跡	〃　出間町	2,400	工事立ち会い
			出間B遺跡	〃　〃	3,500	現状保存
			出間C遺跡	〃　〃	10,000	試掘　本調査1,500㎡
	上御糸	20	麻績神社西方遺跡	多気郡明和町中海	12,000	試掘　本調査200㎡
			須田遺跡	〃　須田	900	地区除外
	斎宮	41	愛場遺跡	〃　池村	3,000	試掘　本調査270㎡
			丸山遺跡	〃　〃	1,700	地区除外
			西村遺跡	〃　西池村	3,600	現状保存　本調査1,030㎡
			西池村遺跡	〃　〃	1,600	現状保存
	明星	17	平尾南遺跡	〃　明星	33,000	地区除外
			平尾南古墳群	〃　〃	600	〃

事業名	地区	事業面積(ha)	遺跡名	所在地	遺跡面積(㎡)	措置
	伊勢南部	30	塚の上A遺跡	伊勢市円座町塚の上	7,000	本調査400㎡
			塚の上B遺跡	〃	1,250	地区除外
			塚の上C遺跡	〃	2,250	〃
			日向遺跡	〃 上野町	2,000	〃
			土畑遺跡	〃 佐八町	2,400	〃
	上野東部	14	池代B遺跡	上野市蓮池字蓮池代	2,800	試掘
			横山A遺跡	〃 〃 字横山	2,600	試掘
			横山B遺跡	〃 〃 〃	200	試掘
			和田遺跡	〃 喰代字和田	3,500	現状保存
	上野南部	5	枡川北遺跡	〃 枡川	18,000	試掘
			枡川南遺跡	〃 〃	21,000	試掘
	大山田第二	23	歌野遺跡	阿山郡大山田村歌野	800	試掘
			田中遺跡	〃 〃 田中	12,000	試掘 本調査600㎡
			天神A遺跡	〃 〃 下阿波	2,500	試掘
			天神B遺跡	〃 〃 〃	1,900	試掘
			馬場遺跡	〃 〃 〃	2,400	盛土保存
			広瀬遺跡	〃 〃 広瀬	600	
	赤目	17	辻垣内遺跡	名張市赤目町辻垣内	65,000	}試掘 本調査7,000㎡
			向岩倉遺跡	〃 向岩倉	25,000	
	友田第二	8				
	相野谷	15	広畑遺跡	南牟婁郡紀宝町相野谷	3,000	工事立ち会い
小計		639			828,200	
県営畜産環境整備事業	度会	51	樋ノ谷遺跡	度会郡大宮町神原		試掘 本調査1,450㎡
			樋ノ下遺跡	〃		試掘
県営県身一営替般揮農農発道道油整整税備備財事事源業業	草生・村主		前田古墳・前田遺跡	安芸郡安濃町中川		本調査900㎡
	勢和		下田遺跡	多気郡勢和村下出江		試掘 本調査200㎡
	勢和二期		西沖遺跡	〃		試掘
	小杉二期		松山氏堡	阿山郡伊賀町小杉		試掘
	大山田南部		歌野遺跡	阿山郡大山田村田中		試掘 本調査1,100㎡

(2) 道路改良、河川改修

道路改良、河川改修はその性格上、埋蔵文化財の保存を計ることが難しいが分布調査、試掘調査の結果に基づき最少限の範囲について事前に発掘調査を実施している。しかし路線決定、用地買収等の事情により工事着手時が未定のものが多く、ほとんどが協議中となっている。

本年度県教育委員会が実施した発掘調査は道路関係3件、河川関係2件である。

事業名	遺跡名	所在地	措置
国道306号改修	三宅西条城跡	鈴鹿市三宅町	本調査　300㎡
県道安乗港線	天神遺跡	志摩郡阿児町国府	試掘　80㎡
県道的矢鳥羽線	浄土古墳群	〃　磯部町	試掘　80㎡
岩田川災害関連改修	井戸A遺跡	津市片田井戸町	本調査　500㎡
木津川改修	下郡遺跡	上野市下郡	本調査　1,000㎡

Ⅱ　埋蔵文化財保護体制の強化

1.　埋蔵文化財整理所

津市及び上野市内に埋蔵文化財整理所があり、出土遺物の収蔵、発掘調査記録類の保管、整理作業及び報告書作成などにあたっている。上野整理所は伊賀地区における国・県等が実施する土木工事に伴う発掘調査を実施するとともに、市町村教育委員会が実施する発掘調査の指導にあたっている。

埋蔵文化財上野整理所

所在地　　上野市丸之内１１７

(電)　０５９５－２４－００７９

月	国・県ほか関係事業	市町村指導
5	農免道路関係協議（大山田村、伊賀町） 県ホ　名張赤目地区試掘 県ホ　大山田第二地区試掘	上野市立丸山中校舎改築予定地試掘調査 阿山町宮田氏城跡
6	県ホ　上野南部地区試掘 県ホ　大山田第二地区田中遺跡調査（８月まで） 農免道路　伊賀町試掘	
7		大山田村広瀬　砂利採取事業地試掘
8	県ホ　大山田敬野遺跡調査（10月まで） 県ホ　名張市赤目辻垣内遺跡調査（３月まで）	
9	県ホ　大山田第二地区分布調査	
10		
11	県　木津川改修工事下郡遺跡調査（２月まで） 県ホ　上野東部地区試掘 県ホ　名張市赤目上東野遺跡調査（12月まで）	大山田村鳳凰寺　土取り事業予定地
１２	県ホ　上野東部地区分布調査 県ホ　上野東部地区試掘調査	

月	国・県ほか関係事業	市町村指導
1	県ホ　大山田第二地区試掘調査 県ホ　昭和５８年度事業予定地内分布調査	大山田村広瀬　中部電力電柱建設
2	県ホ　大山田第二　道ノ下遺跡調査 国・県　昭和58年度道路事業予定地内分布調査	
3	県ホ　上野東部・上野南部・大山田第二地区試掘調査	

県ホ：県営圃場整備事業

2. 文化財パトロール

埋蔵文化財を主とする文化財の保護の徹底をはかるため、小中高の教員および民間の有識者などを三重県文化財調査員として各教育事務所に配置しパトロールを実施している。

昭和５７年度の文化財パトロールは、県文化財調査員５０名に依頼して実施した。本年は天然記念物関係の調査員を新らたに加えるとともにパトロールの地域的偏りの是正を計ったが、調査員の不足により十分でなかった点もある。

(1) 開発計画と文化財パトロール

総パトロール件数８６３件のうち、埋蔵文化財関係が８９％を占め、処理件数１５件がすべて埋蔵文化財関係となっている。それらの傾向としては、宅地造成・小規模土取りなどが目立ち、これらの小規模開発に対する埋蔵文化財保護の事前協議、指導を県及び市町村教育委員会が一体となって対処する体制づくりが必要である。

(2) 文化財の実態確認

文化財パトロールによる新発見遺跡は、６１件であったが、周知の遺跡の実態確認により追加及び訂正されたものも多くある。これらについては、遺跡カード、遺跡地図に追加記入し整備したうえで、関係市町村教育委員会などに配布し活用している。今年度の国・県指定の文化財に対するパトロール件数は、９９件で、全体の１１％にしかすぎないが、管理状況の把握及び管理に対する指導などを通じてより一層充実強化していく必要がある。

〔昭和５７年度文化財パトロール実施状況〕

月別	重要文化財 国151 県212		史跡 28 66		名勝 4 9		天然記念物 23 76		埋蔵文化財 9,000		処理内容		
	巡視	処理	巡視	処理	巡視	処理	巡視	処理	巡視	処理	教育事務所	文化財名	内容
4	件	件							4	2	中勢 南志	（遊技場） 小姫塚中世墓（土取り）	現地立会 町教委へ連絡 現地立会
5							1	—	26	1	中勢	（宅地）	現地立会
6	11	—	1	—			1	—	74	2	中勢 南志	（学校） 白浜貝塚（道路）	町教委へ連絡 市〃
7	5	—	2	—			6	—	99	1	中勢	上野城跡（相撲場）	町教委へ連絡 試掘調査
8	8	—	2	—			20	—	77	—			
9	3	—	2	—			5	—	75	2	中勢 〃	（土取り） （〃）	町教委へ連絡 〃
10	6	—					6	—	38	1	熊野	千福寺遺跡（団地）	町教委へ連絡 現地立会
11									61	2	中勢 〃	自衛隊南方古墳（土取り） （工場）	町教委へ連絡 〃
12							3	—	87	1			
1	3	—							82	3	中勢 南志 〃	岡南古墳群（田地改良） 近世台場跡 大仏山西麓古墳（土取り）	町教委へ連絡 市〃 町〃
2	4	—					3	—	68	1	南志	鍋田古墳群（道路）	町教委へ連絡
3	3	—					4	—	73	—			
計	43	—	7	—			49	—	764	16		総パトロール件数　８６３件 総処理件数　１５件	

〔四日市市文化財パトロール調査員〕

調査員	所属	住所
石井　剛	菰野中学校	
片岡雅章	桑名高等学校	
森下　明	大矢知興譲小学校	
個　人		
早川裕己	大谷台小学校	
加藤淳次	大池中学校	
村上智子	羽津小学校	

地区	分担地区	調査員
A地区	保々、下野、八郷、大矢知、富州原、富田	片岡・森下
B地区	県、三重、神前、羽津、海蔵、橋北、旧市	早川・村上
C地区	桜、川島、神前、常磐、日永	加藤・石井
D地区	水沢、小山田、内部、河原田、四郷、塩浜	個人・加藤

（註　「四日市市文化財パトロール要項」は、『三重県埋蔵文化財年報7』昭和51年度版 1977.3を参照）

〔津市埋蔵文化財パトロール調査員〕

調査員	所属	住所
河合良成	南郊中学校	
西口嘉雄	西郊中学校	
浅生悦生	〃	
和田　勉	橋南中学校	
高士洋幸	新町小学校	
長谷川　博	高田高等学校	
三重大学歴史研究会原始古代史部会		
津高地歴クラブ　（顧問　北村治郎）		
津西高郷土史クラブ（〃　栗本俊雄）		
〃　地理クラブ　（〃　徳井　賢）		
高田高郷土史クラブ（〃　長谷川博）		

3. 埋蔵文化財発掘技術者研修

埋蔵文化財の調査に関する専門的知識と技術の向上を目的とした研修事業は、昭和４２年度以来、学校職員を対象として夏期に県外の研究機関に派遣して実施してきた。しかし夏期の短期間の研修では不十分であるため、昭和５４年度からは研修事業を強化拡大し、県外３カ月、県内９カ月の１カ年研修を実施している。

昭和５７年度研修生

橋　本　俊　士　（上野高等学校教諭）
川　村　輝　夫　（多気中学校教諭）
田　阪　　仁　（波瀬小学校教諭）
中　川　善　夫　（栄小学校教諭）

〔昭和５７年度研修内容〕

月	県内研修		県外研修
4	○文化財保護行政について ○遺物整理実習	○遺跡見学	
5	○遺物整理実習	○分布調査実習	
6		○発掘調査実習（斎宮跡、前田遺跡）	
7		○発掘調査実習（起Ａ遺跡、前田遺跡）	○飛鳥藤原宮跡発掘調査部
8		○発掘調査実習（辻垣内遺跡、起Ａ遺跡）	○埋文センター　〃
9		○発掘調査実習（辻垣内遺跡）	〃
10		○発掘調査実習（辻垣内遺跡）	○平城宮跡発掘調査部
11		○発掘調査実習（河田古墳）	〃
12		○発掘調査実習（河田古墳）	〃
1		○発掘調査実習（河田古墳）	
2	○報告書作成実習	○発掘調査実習（河田古墳）	
3	○室内講義 ○報告書作成実習		

〔室内講義内容〕

月　日	内　　容	担　　当	場　　所
3. 7	・文化財の取り扱い	係長　小玉　道明	津埋蔵文化財整理所
	・三重県の弥生土器	主査　伊藤　久嗣	〃
	・三重県の古墳時代須恵器	技師　山田　猛	〃
3. 9	・三重県の縄文土器	主事　倉田　直純	斎宮跡調査事務所
	・斎宮跡について	主査　山沢　義貴	〃
3. 36	・三重県の古代土器	技師　新田　洋	津埋蔵文化財整理所
	・三重県の中世土器	主事　駒田　利治	〃

4. 埋蔵文化財担当者の研修

県及び市町村教育委員会の埋蔵文化財担当者に対する研修会を、隔月に開催地を順次交替して開催している。

この研修会は県教委文化課（１２名）、斎宮跡調査事務所（４名）、市、町（１３名）、研修生（４名）の全員参加を原則としており、埋蔵文化財における行政上の諸問題、調査方法、調査結果等について情報交換及び討議を行った。また、重要遺跡の見学とともに、文化財関係ほかの講演を聴講した。

〔研修内容〕

開催日	開催地	参加数	講演・見学
57. 4.23	県合同ビル	(人) 37	「21世紀に向けての三重づくり」 ー第２次長期総合計画の策定にあたってー 県企画課企画監　昇　秀樹
57. 6.18	名張市 勤労福祉会館	35	「発掘調査にかかる労働安全衛生について」 三重県労働基準局安全衛生課　宇田治生 奥出遺跡・小谷遺跡 名張市遺跡調査会整理室
57. 9. 3	津市敬和公民館	35	「津市の長期計画について」 津市企画調整係　山田耕筰 宮間戸遺跡・前田遺跡・城坂館跡

開催日	開催地	参加数	講演・見学
57.10.20	東員町 保健福祉センター	26	「東員町のうつりかわりと展望」 東員町教育委員会教育長　近藤　清 山田城跡・四日市市文化会館
57.12.20	上野市 中央公民館	32	「文化財問題一般について」 上野市文化財専門委員　山本茂貴 西明寺遺跡・辻垣内遺跡・鴻ノ巣遺跡
58. 2.18	サンライフ松阪	28	「町並保存について」 松阪市役所建築課係長　中村貴雄 草山遺跡・河田古墳群・松阪市埋蔵文化財整理室

5. 文化財保護連絡会議

(1) 趣　旨

本県内において行われる住宅造成、農業基盤整備、道路建設等の開発事業にかかる埋蔵文化財の取り扱いについては、昭和48年7月10日付教文第353号で三重県教育委員会教育長が各市町村教育委員会教育長に通知したところであるが、連絡を強化し、事前協議等における文化財の確認、事務を円滑に行ない、文化財保護を確立する。

(2) 開催日

教育事務所	開催日時	場所
北　勢	10月25日 9：30～11：30 県関係	県庁舎4F第7会議室
中　勢	10月27日	合同ビル3F第5会議室
松　阪	10月26日 1：30～3：30 市町村関係	県庁舎3F第2会議室
南勢・志摩	10月22日	県庁舎3F第6会議室
上　野	11月2日	県庁舎3F大会議室
尾　鷲	10月28日午後1：30～ } 県・市町村合同	県庁舎2F第1会議室
熊　野	10月29日午前9：30～	県庁舎5F第9会議室

(3) 協議内容

1） 開発にかかる埋蔵文化財の取り扱いについて

○各種開発事業と埋蔵文化財の保護について

○各種開発事業計画と埋蔵文化財について

・県、市町村の開発事業計画を中心として

2） 各市町村における文化財の現状と保護について

(4) 出 席 者

教育事務所	地方振興事務所	農業事務所	耕地事務所	林業事務所	土木事務所	各市町村教育委員会（教）は
北勢		北勢	桑名 四日市	四日市	桑名 四日市 鈴鹿	藤原（教）・北勢（教）・大安（教、事業課）員弁（教）・東員（教）・菰野（教、観光都市計画課） 関（教）
中勢	津	津	津	中勢	久居	津（教）・芸濃（教）・安濃（教、企画課）・香良洲（教）・美杉（教）・白山（教）・一志（教）嬉野（教、企画課）
松阪	松阪	松阪	松阪			松阪（教）・勢和（教、企画課）・大台（教）・多気（教）・明和（斎宮跡対策室・企画開発課）
南勢志摩	伊勢	伊勢	伊勢		伊勢 志摩	伊勢（教、都市計画課）・度会（教）・玉城（教、土木課）・御薗（教）・二見（教、土木観光課、産業課）・南勢（企画商工課）・南島（教）鳥羽（教、土木課）・磯部（教、企画調査課）・阿児（教、建設課）・大王（教）・志摩（教）
上野	上野	上野			上野	上野（教）・島ケ原（教）・青山（教）・名張（教、建築課）
尾鷲	県事務所	農務課	尾鷲	尾鷲	尾鷲	尾鷲（教）・紀伊長島（教）
熊野	県事務所		熊野	熊野	熊野	熊野（教）・御浜（教）・紀宝（教）・紀和（教）

Ⅲ　緊急調査の現状

1.　大規模開発事業地域遺跡分布調査

(1)　調査目的

蓮ダム及び南勢水道用水供給事業地域のうち、特に飯高町・飯南町・勢和村多気町の詳細な遺跡の分布調査を実施し、周知の徹底をはかる。

(2)　調査組織

1）　調査主体　　三重県教育委員会

2）　調 査 員　　三重県文化財調査員

3）　調査協力　　各教育事務所・市町村教育委員会・三重大学歴史研究会原始古代史部会

(3)　調査実施期間

昭和５７年５月～昭和５８年３月

氏　名	勤務校	備　考	氏　名	勤務校	備　考
世古　且守	松阪第二小	県文化財調査員	岡本　好雅	山室山小	県文化財調査員
奥　義次	松阪商高	〃	河合　明	松阪工高	〃
奥谷　義一	締水小	〃	前川　嘉広	花岡小	〃
福田　昭	多気中	〃	増田　安生	明和中	〃
調査協力	三重大学歴史研究会原始古代史部会				

(4)　調果結査

（ ）は新発見遺跡で内数

対象地区	確認遺跡数	内訳		
		遺物包含地	古　墳	その他
飯高町	7（ 3）	7（ 3）	－（ －）	－（ －）
飯南町	19（13）	19（13）	－（ －）	－（ －）
勢和村	27（ 3）	22（ 2）	1（ 1）	4（ －）
多気町	47（ 9）	20（ 5）	25（ 2）	2（ 2）
計	100（28）	68（23）	26（ 3）	6（ 2）

2. 緊急発掘調査

本年度は県教育委員会が主体となって実施したものは２２件、市町村教育委員会が主体のもの２８件、遺跡調査会が主体のもの10件で総60件の発掘調査があった。今年度も圧倒的に公共事業によるものが多く、近年の開発事業が次第に山間部に移向していくにつれて、縄文時代の遺跡・遺物の検出が増加する傾向が認められる。なお、調査体制、出土品の収蔵・保管などについては多くの問題を抱えており、抜本的な改善策を検討する必要がある。

（※　国・県費補助事業）

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
山田城跡	員弁郡東員町山田字城山	第２西桑名ネオポリス団地造成	町教委	事業者
新晴遺跡	〃　〃　長深字元敷	農村総合整備	〃	町
山田廃寺	〃　〃　山田	武道館建設	〃	〃
頃末遺跡	〃　藤原町山口字頃末	三重用水幹線水路建設	〃	水資源開発公団
大久保遺跡	三重郡菰野町潤田字大久保	都市計画街路菰野潤田線新設	〃	町
起Ａ遺跡	鈴鹿市安塚町字起	県営ホ場整備	県教委	県（農林水産部）※
西川遺跡	〃　郡山町字西川	団地造成	市遺跡調査会	事業者
三宅西条城跡	〃　三宅町	国道３０６号改修	〃	県（土木部）
正法寺山荘跡	鈴鹿郡関町鷲山字加まへ	史跡整備	町教委	関町　※
前田遺跡	安芸郡安濃町中川	一般農道	県教委	県（農林水産部）
上野城跡	〃　河芸町上野字城屋敷	公園整備	町教委	町
城坂古墳	〃　安濃町戸島字城坂	町道建設	〃	〃
城坂館跡	〃　〃　〃	〃	〃	〃
中井遺跡	〃　〃　浄土寺	県営ホ場整備	県教委	県(農林水産部)※
藤ケ森遺跡	〃　〃　〃	〃	〃	〃　※
宮間戸遺跡	津市雲出長常町	〃	〃	〃　※
井戸Ａ遺跡	〃　片田井戸町字志保	岩田川災害関連改修	〃	県（土木部）

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
大口北遺跡	久居市井戸山町	久居東中学校新設	市教委	市
東出遺跡	〃 元町	土地区画整理	〃	事業者
西鷹跡 武家屋敷跡	〃 西鷹跡町	マンション建設	〃	〃
岩脇C遺跡	一志郡白山町	県営ホ場整備	県教委	県(農林水産部)※
大角遺跡	〃 〃 川口字大角	武道館建設	町教委	町
大谷広遺跡	〃 〃 二本木字大谷広	小学校体育館新設	〃	〃
西瀬古遺跡	〃 一志町大仰字西瀬古・中道	団体営ホ場整備	〃	〃
北畠氏館跡	〃 美杉村上多気	重要遺跡確認	村教委	村 ※
服部遺跡	松阪市出間町服部	県営ホ場整備	県教委	県(農林水産部)※
草山遺跡	〃 久保町字草山・下村町字草山	団地造成	市教委	事業者
西村遺跡	多気郡明和町池村	県営ホ場整備	県教委	県(農林水産部)※
愛場遺跡	〃 〃 〃	〃	〃	〃 ※
麻績神社 西方遺跡	〃 〃 中海	〃	〃	〃 ※
発シB遺跡	〃 〃 有爾中字発シ	小学校建設	町教委	町
斎宮跡	〃 〃 斎宮	重要遺跡確認	県教委	県(教委)※
斎宮跡	〃 〃 〃	史跡現状変更	町教委	町 ※
河田古墳群	〃 多気町河田字東谷	山砂利採取	〃	町 ※
下田遺跡	〃 勢和村下出江	県営揮発油税 財源身替農道整備	県教委	県(農林水産部)
田丸城跡	度会郡玉城町田丸	村山記念館建設	町教委	町
植松遺跡	〃 〃 小社字曽根	小学校校舎建設	〃	〃
小姫塚	〃 度会町棚橋字宮ノ西	土石採取	町遺跡 調査会	〃
樋ノ谷遺跡	〃 大宮町神原字樋ノ谷	県営畜産環境整備	県教委	県(農林水産部)※
殿垣外遺跡	伊勢市西豊浜町字殿垣外	小学校校舎増築	市教委	市
塚の上A遺跡	〃 円座町塚の上	県営ホ場整備	県教委	県(農林水産部)※

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
大薮遺跡	伊勢市磯町大薮	中部電力鉄塔建設	市教委	事業者
天神遺跡	志摩郡阿児町国府	県道安乗港線	県教委	県（土木部）
下郡遺跡	上野市下郡	木津川改修	〃	〃
西明寺遺跡	〃 西明寺字西明寺	重要遺跡確認	市教委	市 ※
才良遺跡	〃 才良	中学校改築	〃	市
田中遺跡	阿山郡大山田村広瀬	県営ホ場整備	県教委	県（農林水産部）※
歌野遺跡	〃 〃 〃 歌野	県営揮発油税財源身替農道整備	〃	県（農林水産部）
道ノ下遺跡	〃 〃 阿波字道ノ下	県営ホ場整備	〃	県（農林水産部）※
宮田氏城跡	〃 阿山町丸桂字向出	住宅・製陶場建設	町教委	事業者
上東野遺跡	名張市赤目町	県営ホ場整備	県教委	県(農林水産部)※
辻垣内遺跡	〃 〃	〃	〃	〃 ※
赤目檀遺跡	〃 〃 檀字大垣内	小学校体育館建設	市遺跡調査会	市
鴻之巣遺跡	〃 夏見字鴻之巣	土地区画整理	〃	事業者
下川原遺跡	〃 〃 字浅尾	中部電力名張営業所新築	〃	〃
奥出遺跡	〃 〃 字奥出	資材置場建設	〃	〃
小谷遺跡	〃 蔵持町芝出字小谷	土地区画整理	〃	〃
辻堂遺跡	〃 安部田字辻堂	地区再編農業構造改善	〃	〃
深ケ遺跡	〃 滝之原字深ケ	小学校校舎建設	〃	市
津ノ森遺跡	熊野市有馬町津ノ森	個人住宅	市教委	市 ※

緊急発掘調査の概要（※印は国庫・県費補助事業、△印は試掘）

（調査主体のカッコ内は発掘主任者名）

山田城跡（東員町山田字城山）

事 業 名　第２西桑名ネオポリス団地造成事業

調査主体　東員町教育委員会（松本　覚・久志本鉄也）

調査期間　昭和５７年５月１日～１２月２５日

調査面積　１４,０００㎡

概　　要　員弁川の北方約３㎞の標高１０７ｍの丘陵上に位置する。城跡は、主に土塁に囲まれた三つの郭から構成され、土塁、通路、井戸等がよく残っている。遺構は、掘立柱建物５棟、礎石建物１棟及び柵列３カ所、暗渠排水溝、石組、石列等が検出された。

遺物は土師質皿、羽釜、甕、擂鉢、天目茶椀、茶壷、灰釉皿等が出土しているが、ごく一部を除いては１５世紀後半～１６世紀前半の美濃窯のものと考えられる。また、中国陶磁として、白磁皿、緑釉小皿、染付椀等が出土している。その他、宋銭６１枚、鉄製品、石臼等が出土した。

新晴（あらばれ）遺跡△（東員町長深字元敷）

事 業 名　農村総合整備モデル事業

調査主体　東員町教育委員会（松本　覚）

調査期間　昭和５７年６月１５日～６月１９日

調査面積　３６０㎡

概　　要　員弁川と朝明川の間の標高約５０ｍの台地上にあり、南は四日市市小牧西に隣接する。以前は畑地であったが、調査時においては大部分が荒地である。約６０カ所の試掘区を設け調査を行ったが、明らかな遺構の確認はできなかった。また、遺物もごく少量で、鎌倉～室町時代と考えられる。

山田廃寺（東員町山田）

事 業 名　武道館建設

調査主体　東員町教育委員会（松本　覚）

調査期間　昭和５７年８月２日～１０月３日

調査面積　６００㎡

概　　要　員弁川北岸の段丘上にあり、東員町庁舎の敷地内に所在する。遺跡台帳等から寺院跡ということで調査を進めたが、寺院を裏付けるような遺構の検出及び遺物の出土はなかった。遺構として多数の柱穴が検出されたが、明らかなものとしては２×２間の掘立柱建物１棟、５×４間の総柱掘出柱建物１棟がある。

遺物は土師器、須恵器、山茶椀等が出土しているが、奈良～鎌倉時代にかけてのものと考えられる。なお、ごくわずかであるが、縄文土器片も出土した。

頃末遺跡（ころすえ）△（藤原町山口字頃末）

事 業 名　水資源開発公団三重用水幹線水路建設

調査主体　藤原町教育委員会（神戸高校　桜木博文）

調査期間　昭和５８年５月２７日～６月４日

調査面積　１２２㎡

概　　要　員弁川右岸の標高約１６０ｍの河岸段丘上にあり、昭和５６年度の分布調査により石鏃・中世陶器が採取されたことにより遺跡の所在がわかった。

今回の調査は、員弁川よりかんがい用水としてサイホン方式で水を引き上げる工事に対応するため実施された。１０カ所の試掘調査で、溝、ピット、土坑が検出されたが、遺物は全くともなわなかった。排土をふるいにかけたところ石鏃１点、剥片２０片が検出された。石材は、すべてチャートである。石鏃は凹基式で、長さ2.2cm、幅1.2cm、厚さ0.4cmで基部の一端を欠く。

大久保遺跡（菰野町大字潤田字大久保）

事 業 名　都市計画街路菰野潤田線新設事業

調査主体　菰野町教育委員会（神田　薫・菰野高校　杉谷政樹）

調査期間　昭和５７年１２月４日～昭和５８年２月２８日

調査面積　２,０００㎡

概　　要　三滝川の扇状地扇端部に位置し、北に竹谷川が流れ、標高約７６ｍ。遺構は、掘立柱建物と思われるもの７棟以上、出土品から鎌倉末期～室町期と考えられる竪穴状建物３棟、溝１６条、井戸１基、上面と側面を意識してならべられた石組遺構（約１×約０.６ｍの長方形）１カ所が検出された。遺物は、土師器（小皿、鍋、羽釜等）、山茶椀、山皿、青磁、瀬戸（皿等）、天目茶椀常滑（カメ）鉄製品、砥石、銅銭１点で、その多くは日用雑器がほとんどであった。また、これらの中に縄文土器も数点確認したので、出土地周辺の４８０㎡にわたり、さらに約４０cm掘り下げたところ土坑２基と数十点の縄文土器片と石錘１点が出土した。しかし、土器片の多くは自然流土と思われる礫層からの検出のため、上流と思われる北西に位置する未確認の遺跡からの流出遺物と考えられる。

起（おこし）Ａ遺跡※（鈴鹿市安塚町起）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（山下雅春）

調査期間　昭和５７年６月１０日～１１月２７日

調査面積　４,５００㎡

概　　要　標高約１２ｍの低平な台地上にあり、土坑１基、竪穴住居１３棟、掘立柱建物１棟、古墳１基、土坑墓３基が検出された。竪穴住居のうち１１棟は弥生時代中期～後期で、長方形プランのものが多く、一辺約４ｍである。うち２棟は遺物の残存が良く、床面直上で甕、壷、高杯、鉢等が出土した。なかでも弥生時代中期（第Ⅲ様式）の完形壷には、炭化米約５０粒が遺存していた。他に縄文時代の土坑（径１.５ｍ、深０.３ｍ）からは、加曽利Ｅ式併行の土器が数個体まとまって出土した。古墳はすでに耕作により主体部を失くしていたが周溝から径約１３ｍと判明し、周溝内の遺物として古墳時代後期の須恵器杯、

短頸壷等が出土した。土坑墓３基も古墳時代後期に属し、２.５×１ｍの長方形で、それぞれに須恵器杯、あるいは土師器が副葬されていた。

西　川　遺　跡（鈴鹿市郡山町字西川）

事 業 名　団地造成

調査主体　鈴鹿市遺跡調査会（鈴鹿市教育委員会　中森成行）

調査期間　昭和５７年２月１日～６月３０日

調査面積　１.２００㎡

概　　要　Ａ地区の西方に位置し、小支谷に囲まれた細長い台地上に所在する。１.２００㎡の調査から、縄文時代の竪穴住居２棟、古墳時代後期の竪穴住居16棟、それ以後に続くと考えられる掘立柱建物１２棟が検出され、非常に遺構密度の高い遺跡である。縄文時代の竪穴住居の一つは、４.８×４.８ｍの円形のもので、中央部に炉跡があり、中期末頃に比定される土器片と石器類が多数出土した。なお、本調査をもって、昭和５０年より開始した郡山遺跡群の調査は終了した。調査面積は約７万㎡、８年の期間を要した。

三宅西条城跡（鈴鹿市三宅町）

事 業 名　国道３０６号改修

調査主体　三重県教育委員会（山下雅春）

調査期間　昭和５７年１１月１８日～昭和５８年１月８日

調査面積　３００㎡

概　　要　北に中ノ川を臨む標高４０ｍの丘陵尾根の先端に位置し、尾根の鞍部を３本の堀り切りで画し、東西に３郭を配する。東端の郭は北と南に低い土塁が残存し、西に一段高い壇を備える。この郭の東をかすめて国道が敷設されるため今回の調査となった。遺構は郭へ登る階段、東西３ｍの石列が検出された石列は現存で２段、約３０cmの河原石を北に面をそろえて配石されている。他にピット、礎石様の石も検出されたがまとまらない。また、北側土塁下には、弥生後期の竪穴住居が１棟検出された。発掘区端のため全貌は不明だが、南北

約６ｍの隅丸方形であり、中央に焼土が検出された。遺物は竪穴住居内より高杯、甕、城にともなうものでは、土師器皿、天目茶椀、常滑甕、羽釜等が出土した。他に円環状の鉄製品も出土した。

正法寺山荘跡※（関町鷲山字加まへ）

事 業 名　史跡整備

調査主体　関町教育委員会（四日市市教育委員会　北野　保）

調査期間　昭和５７年９月２０日～１１月７日

調査面積　約８００㎡

概　　要　今回の調査は、昭和５３年度の範囲確認トレンチ調査の結果をもとに山荘跡東部を対象とした。調査の結果、検出した主な遺構・遺物は下記のとおりである。

土壇　山荘跡中央部の約４０×６０ｍの土壇の東側に張り出す、南北約１５ｍ東西約１６ｍの規模で、その基底部には人頭大の石が１～３段積まれていた。また、この土壇の南辺では、当時の地表から土壇へあがるための入口と考えられる石敷状の部分を確認したが、土壇上の構造については後世の開墾等による削平が著しく明らかにできなかった。

石敷通路　上記土壇の西北隅から北側に向う幅約１.９ｍ、長さ約４.６ｍ以上のもので、両側には３０～５０cm大の石を組み、床面にはこぶし大の石を敷きつめている。方形石敷遺構調査地区の東隅にあり、東西に続く土塁に接して検出したもので、東西約７ｍ、南北約２ｍの規模である。四周の石は、幼児の頭部大で、すべて内部に向って面を揃え、内部にはこぶし大の石を全面にわたって敷いている。検出した四周の石は、１段のみであるが、元は２～３段積まれていたものと考えられる。

石組溝　方形石敷遺構の北4.5ｍにあり、東西に平行する幅約７０cm、長さ約８ｍのものと、今回検出した土壇の南東端から東側に約３ｍ離れて東西に延びる幅約１.１ｍ、長さ約５.５ｍの石組溝である。

石垣　調査地区西隅で約３ｍにわたって検出したもので、北側に露出している

中央部土壇の北東部を画すものと考えられる。

遺物　完形の土師器皿をはじめ、鍋、すり鉢、陶磁器皿、鉢、甕、天目茶椀及び軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦などがある。この他に特に珍しいのは、長さ約１０cm、高さ約５cmの土製の犬である。そのつくりは、粘土をヘラで削り、両方の耳を指でひねり、目、鼻、口をきざみでつけ、非常に愛らしい表情を見せている。ただ４本の足の下半部と、尾は欠けている。角釘、古銭、銅製の笄とキセルも検出された。

前　田　遺　跡（安濃町中川）

事 業 名　一般農道

調査主体　三重県教育委員会（山田　猛）

調査期間　昭和５７年６月７日～８月１０日

調査面積　９００㎡

概　　要　沖積平地部に所在する浸食残丘の丘陵頂部と、その山裾に位置する。安濃川右岸の丘陵一帯には、多くの古墳群が知られ、北方には明合古墳も望見できる。調査の結果、山頂には弥生時代後期前半の方形台状墓が認められ、山裾では鎌倉時代以降の土器片が若干出土した。方形台状墓はやせ尾根の頂上部に四方を溝で区画してあり、多少の盛土をしたものと思われる。台状部中央では主体部は認められなかったが、高杯脚柱状部片と甕片が出土した。また、溝からは壷が数点出土した。この壷類はおそらく墳丘上から転落したものと思われる。なお、この台状墓に西接する部分も、同様な遺構の可能性がある。一方この台状墓の北側の鞍部には２条の溝が存在し、同時代の壷が出土した。さらに、調査区に北接する前田１号墳は、測量の結果から方形の墳丘であることが判明し、方形台状墓である可能性も考えられる。

上　野　城　跡△（河芸町上野字城屋敷）

事 業 名　本城山公園整備事業

調査主体　河芸町教育委員会（西郊中学校　浅生悦生）

調査期間　昭和５７年８月１０日～１１日

調査面積　約５０㎡

概　　要　参宮道に沿う上野の町並を見下す標高３０ｍの台地上にあり、台地の東端は断崖状をなし、北、西、南はそれぞれ谷が入っている。

発掘区は、相撲場計画地である本丸跡の平坦地の西隅近くにあたる。本丸跡は約８０ｍ四方の高台からなり、南側には土塁がほぼ完存し、北西隅、東隅には櫓台状土壇が認められ、現況は芝草地である。今回の発掘区内では、建物に関する遺構が確認されなかったが、土坑１基が検出された。土坑は0.７×1.８ｍの細長いもので、瓦片が十数片出土した。さらに土塁の内側にそって、トレンチを北東、北、北西に各一本入れた結果、幅６０～８０cm、深さ２５～４０cmで断面U字形の溝状遺構が検出された。これは本丸内の排水施設の一部と考えられる。

城　坂　古　墳（安濃町戸島字城坂）

事 業 名　町道建設事業

調査主体　安濃町教育委員会（西郊中学校　浅尾悦生）

調査期間　昭和５８年３月１５日～３月３１日

調査面積　３００㎡

概　　要　城坂館跡の西方約１３０ｍにある円墳で、既存の町道によって墳丘の南約$\frac{1}{3}$が削平されている。直径約7.５ｍ、高さ約３ｍで幅約２ｍの周濠がめぐり、墳丘の中央部に天井石が崩落した小石室一基が残る。小石室は南半を町道で切られているが、現長約1.７ｍ、幅0.６～0.７ｍで、遺存状態の良い西壁は高さ約0.７ｍである。石室内部は既に攪乱されて遺物は全く認められない。なお、町道を南に隔てた拡張工事地域については、トレンチ調査を行い、幅約３ｍ、深さ約1.６ｍの溝二本が平行して掘られており、さらに西方約４０ｍ離れた地点でも同様の溝一本が南北に存在していることが確認された。すでに調査された城坂館跡の西側一帯の畑地に、侍屋敷等の存在が推定される。なお、城坂古墳の墳丘上の攪乱上層内から、中近世の陶磁器、土師器片のほか、弥生時

代前期末の赤焼きの甕片も出土している。

城　坂　館　跡（安濃町戸島字城坂）

事 業 名　町道建設事業

調査主体　安濃町教育委員会（長野小学校　田中喜久雄）

調査期間　昭和５７年７月１日～８月３１日

調査面積　２,０００㎡

概　　要　安濃町大塚の谷をへだてた北側の舌状台地の東端にあり、８０×７０ｍほどの規模で土塁がめぐる。文献には記載されていない館であるが、出土遺物などから、室町時代後半のものと考えられる。

今回の調査は、町道予定地の２５×８０ｍの約２,０００㎡について実施した。表土がうすく、耕作等で相当攪乱を受けていた。主要遺構としては、掘立柱建物２棟、火葬墓３基のほか、配石、集石遺構が３カ所で検出された。掘立柱建物は３×４間のものと２×４間のものであるが、前者の柱穴は径５０cm、深さ６０cm前後の掘り方をもつ大型のものである。火葬墓はいずれも９０cm×６０cm、深さ２０cmほどの楕円形のもので、厚い炭層内に骨片が認められたが、掘立柱建物廃絶後のものである。出土遺物には青磁、天目、染付などの破片、土師器、鍋、羽釜、杯、擂鉢片などのほか、鉄釘、銭貨などがあるが出土量は少ない。

中　井　遺　跡※△（安濃町浄土寺）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（福村直人）

調査期間　昭和５７年６月７日～６月２３日

調査面積　２００㎡

概　　要　安濃川右岸の標高約１４ｍ前後の河岸段丘上に位置し、現状は水田である。調査は排水路部分について２.５ｍ×８０ｍのほぼ南北方向のトレンチを設定した。その結果、南北方向に約２ｍの間隔をおいて並ぶ、深さ２０～４０

cm、直径４０～７０cmの４つのピットが確認された。掘立柱建物の一部と考えられるが、規模は不明である。その他、不規則に並ぶピットも検出されたが、時期は不明である。出土遺物には、土師器、須恵器、山茶椀、山皿、灰釉陶器布目瓦等がある。

藤ケ森遺跡※△（安濃町浄土寺）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（福村直人）

調査期間　昭和５７年６月２５日～８月６日

調査面積　２３０㎡

概　　要　安濃川右岸の標高約１４ｍ前後の河岸段丘に位置し、現況は、水田である。調査は、排水路部分について２×７０ｍ（Ａ区）、２×４５ｍ（Ｂ区）の２本のトレンチを設定した。その結果、Ａ区では溝１条、直径約２０～３０cmの石を１列に並べた石列遺構、直径約１０cmの石を約８０cmの高さに積み上げた石垣状遺構、その他大小２０個の不規則に並ぶピットが検出された。Ｂ地区では幅約３ｍ、深さ約８０cmの東西方向に走る古墳時代の大溝を検出し、埋土は粗砂と灰色粘土層で形成されている。遺物は、大溝を中心に土師器、山茶椀、山皿、灰釉陶器、縁釉陶器等が出土した。時期的には、古墳時代から奈良時代のものが多い。

宮間戸（みやまど）遺跡※（津市雲出長常町）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（中村信裕　本堂弘之）

調査期間　昭和57年７月29日～９月30日　12月３日～昭和58年１月10日

調査面積　１次　1,９００㎡　　２次　６００㎡

概　　要　雲出川左岸の沖積地に位置し、標高約１ｍの畑地である。幹線道路と排水路予定地をＡ～Ｅの５区に分け、調査を行った。その結果、鎌倉時代を中心にした多数の遺構と遺物を検出した。各区の主要遺構をみると、Ａ地区で溝

３条、土坑８基、Ｂ地区で溝７条、土坑１１基、火葬墓４基、Ｃ地区で溝２条土坑１５基、掘立柱建物１棟、Ｄ地区で溝８条、土坑3基、井戸２基、Ｅ地区で井戸２基が検出された。遺物は山茶椀、山皿が全体の出土量の９割を占めており、この中には墨書土器も含まれている。その他、土師器、青磁があり、和鏡１面、貝殻（シジミ、アサリ）も出土した。

井戸Ａ遺跡（津市片田井戸町字志保）

事業名　二級河川岩田川災害関連改修事業

調査主体　三重県教育委員会（本堂弘之）

調査期間　昭和５８年２月２２日～３月１２日

調査面積　５００㎡

概　　要　岩田川右岸の標高約１１ｍの河岸段丘上に位置し、現状は畑地である。調査の結果、平安時代中葉の掘立柱建物（２×２間以上）１棟のほか、ピット若干と溝状土坑を確認した。遺物は包含層から古墳時代前期の複合口縁壷、円筒埴輪片のほか、掘立柱建物の柱穴埋土から若干の灰釉椀片が出土した。なお平安時代の遺構面の下方に、古墳時代遺構の有無を確かめたが、確認されなかった。

大口北遺跡（久居市井戸山町）

事業名　久居東中学校新設事業

調査主体　久居市教育委員会（辻　富美雄）

調査期間　昭和５７年１０月４日～１１月６日

調査面積　1,０００㎡

概　　要　低湿地を望む南面する丘陵端部に所在し、約３０cmの表土層を除き黄褐色粘土層上面で遺構が検出された。遺構は２棟の円形竪穴住居と貯蔵穴と考えられる２基の土坑、石鏃１０本を出土した土坑がある。竪穴住居は4.５×４ｍの楕円形で、側壁近くに１０本の柱穴がみられる。柱穴は直径約３０cm、深さ５０cmを測る。さらに床面の中央部に２本づつ５組の柱が方形を画すように

立てられている。入口は南側に出っぱり、入口部に直径５０cm、深さ３０cmの円形ピットがみられる。この住居は内部を方形に間敷切り使用されていたと思われる。住居の横には貯蔵穴をもち、２棟がならびたった典形的な縄文時代集落である。現状保存は困難なため、ゴムラテックスによる型取りを行い保存した。

東　出　遺　跡　（久居市元町）

事 業 名　東出土地区画整理事業

調査主体　久居市教育委員会（辻　富美雄）

調査期間　昭和５８年１月２４日～３月１７日

調査面積　1,８００㎡

概　　要　雲出川の北側に広がる河岸段丘上に営まれた遺跡である。調査は大きく２区にわけられる。第１区は丘陵先端部で、縄文時代後期の直径３０～５０cm、深さ３０～７０cmのピット約１１０個を検出し、５世紀後半に構築された古墳もある。古墳は直径約１３ｍで、幅３ｍの周濠をもつ。封土、主体部はすでに流失していた。遺物はいずれも周濠内から出土し、碧玉製勾玉、須恵器蓋杯、碗である。また、古墳から北へ約３０ｍの所で幅３ｍ、深さ1.５ｍの舌状丘陵を横断するような溝が検出された。溝から５世紀後半の須恵器蓋付高杯３、長頸壷１、短頸壷１、碗が出土した。これらは溝の北側に祭られたものが溝内へ落下したと想像される。すなわち当遺跡は、古墳と古墳外地域を区画し、古墳祭祀を古墳上だけではなく、さらに外地域で行っていたとも考えられる点が注目される。

西鷹跡武家屋敷跡（久居市西鷹跡町）

事 業 名　マンション建設事業

調査主体　久居市教育委員会（辻　富美雄）

調査期間　昭和５７年１１月２４日～１２月１５日

調査面積　５００㎡

概　　要　江戸時代の藤堂家の居城久居城の北端部分にあたる。『藤影記』中の絵図には、城中と町屋の境に「溝せまく御座候……」とある。今回の調査は、絵図中の城を区画する溝（堀）の検出を目的とした。

調査の結果、現在の町境界より約１０ｍ南に幅５ｍ、深さ２ｍの溝が検出されたので、『藤影記』の絵図の史料的価値を再確認しえたと考える。また江戸時代を通じて城境界が約１０ｍ北へ移動したことは武家屋敷の拡張、町屋の縮小を表わし、武士と町人とのかかわりを考える上で興味をひく。

岩脇Ｃ遺跡※（白山町川口）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（本堂弘之）

調査期間　昭和５７年１０月１２日～１１月４日

調査面積　６５０㎡

概　　要　雲出川支流である弁天川左岸にあり、標高は約４６ｍの東に向かってはり出した微高地の東端に位置する。今回の調査は、散布域の東北部分約$\frac{1}{3}$について実施した。遺構は、調査地区の中央に自然形成の大溝があり、その南側で配石土坑2基を検出した。うち１基は、深さ約１０cmと浅く一列一段の石組がみられ、土師器鍋片が出土した。他の１基は、深さ約1.５ｍと深く、黒灰色の埋土からは礫のほかに山茶椀、青磁片等が出土した。ピットは多数検出されたが、建物としてまとまらなかった。遺物には、山茶椀、鉢、土師器小皿、鍋、瓦器椀、青磁片が出土した。

大角（おおずみ）遺跡（白山町川口字大角）

事業名　武道館建設

調査主体　白山町教育委員会（町井　徹・三重県教育委員会　本堂弘之）

調査期間　昭和５７年９月２７日～１０月１日

調査面積　２００㎡

概　　要　雲出川右岸、標高約４５ｍの河岸段丘上に位置する。遺跡の範囲は

３５０×４００ｍで現在は田畑や宅地等である。調査は、１０×２０ｍの範囲で行った。遺構は、弥生時代中期の竪穴住居２棟と、中世の掘立柱建物（２×３間）１棟である。竪穴住居は、4.5×5ｍの方形で、南側と西側に周溝をもつ。他の一棟はすでに削平され、全体の約$\frac{1}{4}$しか検出できなかった。遺物には弥生時代中期の土器片、奈良～平安時代の土師器（杯･甕）、須恵器(杯)、山茶椀、サヌカイトの剥片がみられた。

大谷広遺跡 △（白山町二本木字大谷広）

事業名　白山町立大三小学校体育館新設事業

調査主体　白山町教育委員会（久居市教育委員会　辻　富美雄）

調査期間　昭和５８年１２月１６日

調査面積　４８㎡

概　　要　大三小学校を含む約５万㎡に及ぶ大集落遺跡で、弥生時代から古墳時代の遺物が広範に散布しており、体育館建設予定地は標高約６０ｍの台地中央部にあたる。その内1,２００㎡に対し６カ所のトレンチを設定し調査をしたが遺構・遺物ともに検出されなかった。

西瀬古遺跡 △（一志町大仰字西瀬古・中道）

事業名　団体営圃場整備事業

調査主体　一志町教育委員会（長野小学校　田中喜久雄）

調査期間　昭和５８年１月１５日～１６日

調査面積　６４㎡

概　　要　大仰地区上出集落の所在する雲出川左岸の河岸段丘上の畑地に位置し１００×７００ｍの範囲に弥生時代から室町時代の遺物が散布している。調査は、工事により削平される地域に２０ｍ間隔で２×２ｍの試掘坑１６カ所を設定した。その結果、各試掘坑とも全体にわたって表上下約６０cmまでに遺物包含層を確認したが、出土遺物は鎌倉～室町時代の土師器、山茶椀、瓦器片が少量あるのみで、遺構は認められなかった。

北畠氏館跡 ※（美杉村上多気）

事業名　手水舎移転

調査主体　美杉村教育委員会（久居市教育委員会　辻　富美雄）

調査期間　昭和５７年7月２６日～９月１５日

調査面積　５００㎡

概　　要　室町時代伊勢国司として君臨した北畠氏の館と伝えられ、現在北畠神社境内となっている。調査の結果、表上下１ｍに石積基底部が長さ約１０ｍにわたり、検出された。石積みは約５０cm大の石で２段積まれ、端部がＬ字状に曲がっている。近くから室町時代の土師質小皿が出土しており、このことからこの石積は北畠氏当時のものと考えられる。なお、美杉村では、今回出土した石積みを目で見る史料として露出展示した。

服部遺跡 ※（松阪市出間町服部）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（福村直人）

調査期間　昭和５７年１０月１２日～１２月７日

調査面積　1,５００㎡

概　　要　櫛田川右岸に広がる沖積平野にあり、標高は約３ｍである。調査の結果、奈良時代の掘立柱建物３棟、根石だけを残す中世の掘立柱建物１棟、中世の土坑墓１基、常滑大甕使用の甕棺墓１基、時期不明の東西方向および南北方向に走る溝２条、井戸１基等を検出した。遺物としては、土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶椀、常滑陶器等があり、時期的には古墳時代から室町時代までみられるが、平安時代前半から中頃の遺物はみられない。中でも中世土坑墓に伴う完形の竜泉窯青磁椀２個は、資料的に価値が高い。

草山遺跡（松阪市久保町字草山、下村町字草山）

事業名　三交不動産ＫＫ、宅地造成

調査主体　松阪市教育委員会（榎本義譲）

調査期間　昭和５７年５月１０日～昭和５８年３月３１日

調査面積　9,０００㎡

概　　要　梅村学園北の周囲を水田に囲まれた独立丘陵（水田との比高約８ｍ）の北東側に位置する。昭和５６年１月７日から２８日に至る期間に行われた試掘調査の結果、遺跡の範囲は、丘陵中央に位置する久保古墳（前Ⅱ期径５２ｍ高さ６ｍ、県史跡）の北東側の丘陵約２万㎡に及ぶことが明らかになった。調査は、久保古墳に隣接する5,０００㎡の保存部分を除く１5,０００㎡を対象とするもので、発掘調査２年、整理期間１年の予定で、昭和５７年５月１０日より発掘調査を開始した。昭和５８年２月２８日現在、遺跡の北東側、約8,500㎡の調査を終えた。

主な遺構としては、竪穴住居８５棟、掘立柱建物４４棟、方形周溝墓６基（以上弥生時代後期　一部古墳時代初頭）、古墳１基（５C後半、周溝のみ、径１２ｍ、周溝幅３ｍ）、溝及び井戸（室町時代）が検出された。遺構は、そのほとんどが弥生時代後期のもので、後期後半のものが圧倒的多数を占め、その時期に爆発的に住居が増加したことを窺わせる。また、住居構造については、暗渠排水や壁柱穴を持つ竪穴住居が多く検出され、桁行３間ないし４間、梁行１間の掘立柱建物が一般的であることが明らかになった。

出土土器は、ほとんどが弥生時代後期の遺構に伴うもので、整理箱２５０箱に及ぶ。良好な一括資料も多く、器形も多種にわたり、後期弥生土器編年研究上貴重な資料といえる。その他の遺物としては、石鏃１、石斧２、石庖丁片２、土錘などがある。また、鉄器の存在を示す砥石が竪穴住居より多く出土している。遺跡全体の約$\frac{1}{2}$の調査を終えた段階ではあるが、遺構の配置を見ると、竪穴住居群と掘立柱建物群、炉も貯蔵穴も持たない大形住居、遺構の希薄になる場所に造られた方形周溝墓などの占地について、集落構成上の計画性がうかがわれ、今後の調査を進める上での課題と考えている。

西　村　遺　跡　※　（明和町池村）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（高見宜雄）

調査期間　昭和５７年６月７日～７月１７日

調査面積　1,０８０㎡

概　　要　櫛田川支流の祓川右岸の台地上遺構は井戸１基、掘立柱建物２棟、数条の溝、多数のピットが検出された。特に北端部の溝からは多数の土師器鍋片が出土した。井戸は直径２ｍの素掘りで、深さ２ｍほどの地点から１節ずつに切った竹が３本重なり合った状態で出土した。この内１本には木釘が打ち込んである。遺物は室町時代中頃以降の土師器が大多数であるが弥生時代中期にあたる壷形土器２点や、奈良時代～平安時代の土師器も出土した。

愛　場　遺　跡　※　（明和町池村）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（高見宜雄）

調査期間　昭和５７年７月１４日～８月６日

調査面積　２２０㎡

概　　要　西村遺跡の南方約４００ｍの位置にある。遺構は、掘立柱建物１棟と直径４ｍの井戸、溝跡などが検出された。井戸からは曲物を３段に重ね、三方向に細い竹釘で止めた井筒が出土した。遺物としては、鎌倉～室町期初期にかけての多くの灰釉椀、山茶椀、他に土師器鍋や皿、擂鉢等が出土した。出土土器量や器種から、この時期における使用土器セット関係を考察する上で貴重な資料が得られた。

麻績神社四方遺跡※（明和町中海）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（新田　洋）

調査期間　昭和５８年１月１０日～１月１１日

調査面積　２００㎡

概　　要　祓川右岸の沖積地に立地しており、表面調査で中世の土師器片、陶磁

器片を確認している。調査は排水路予定部分（幅４ｍ、延長５０ｍ）であったが、４カ所の試掘坑を設定し、遺構があれば拡張していくという方法で実施した。層序は基本的に上から第１層：灰褐色砂質土（約４０cm）、第２層：黄褐色粗砂（１０～１５cm）となり、２層以下はバラス混りの砂層がつづく。２層上面が中世の遺構面と考えられるが、遺構は確認されなかった。

遺物は土師器、小皿、鍋の小片があるが、磨滅しており、河川氾濫時の流れ込みと考えられる。

発シ（おこし）B遺跡（明和町大字有爾中字発シ）

事 業 名　修正小学校改築

調査主体　明和町教育委員会（伊勢市教育委員会　岩中淳之）

調査期間　昭和５７年５月２７日～８月２９日

調査面積　1,６００㎡

概　　要　玉城丘陵北端の標高約３０ｍの丘陵上。５６年度の試掘調査により建設予定地内の約4,３００㎡に遺構が存在することが確認され、設計変更を含む遺跡保護のための協議が続けられたが、最終的に1,６００㎡について本調査が実施されることとなった。調査の結果、古墳時代後期の方形竪穴住居２棟、奈良時代後期の竪穴住居８棟、掘立柱建物１３棟のほか、土師器焼成坑９基、井戸１基が確認された。そのうち二等辺三角形状の土師器焼成坑は、長径3.５ｍ、底辺1.９ｍ、深さ0.５ｍで遺存状況が良好であり、うち１基の端部には帯状の排煙溝がある。井戸内には木製枠組が三段あり、多量の土師器が出土した。なお、奈良時代竪穴住居内から土馬１点が出土した。これらの土器焼成坑、竪穴住居群、掘立柱建物群（倉庫を含む）及び井戸の存在は、８世紀後半の「有爾郷」の性格と、北方約２㎞に所在する斎宮跡との関連を含めて多くの問題を内包している。

斎　宮　跡※（明和町斎宮）

事 業 名　重要遺跡確認調査

調査主体　三重県教育委員会（三重県斎宮跡調査事務所）

調査期間　昭和５７年５月６日～昭和５８年２月２６日

調査面積　6,７００㎡

概　　要

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地籍・地番	所有者	備考
42－1	6AEI－D・F	1,200㎡	57.5.6～57.7.7	明和町斎宮楽殿	明和町	計画的面調査 AB地区
42－2	6AEK－A・D	250	57.9.28～57.10.15	〃　宮之前、下園	〃	計画的面調査 AB地区
44	6AEP－A・B	1,200	57.7.20～57.10.13	〃　鍛冶山	個人	計画的面調査 C地区
45	6AEG－P・Q	920	57.10.14～57.12.14	〃　楽殿	個人	計画的面調査 AB地区
46	6AGN－C・D	1,260	57.12.13～58.2.26	〃　鍛冶山	個人	計画的面調査 C地区
47	6ADJ－D・G他	1,870	57.12.13～58.2.26	〃　西加座、御館宮之前、上園	個人	計画的トレンチ調査C、AB地区

斎　宮　跡　※　（明和町斎宮）

事業名　史跡現状変更

調査主体　明和町教育委員会（三重県斎宮跡調査事務所）

調査期間　昭和５７年５月１０日～昭和５８年２月１２日

調査面積　６５７㎡

概　　要

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地籍・地番	所有者	備考
43－1	6ADC－C	150	57.5.10～57.5.21	明和町斎宮出在家	個人	個人住宅 C地区
43－2	6ADT－B	36	57.5.21～57.6.9	〃　木葉山	個人	倉庫新築 E地区
43－3	6ACP－T	27	57.6.2～57.6.11	〃　竹川南裏	個人	倉庫新築 E地区
43－4	6ADS－D	43	57.6.11～57.6.24	〃　牛場	個人	個人住宅 E地区
43－5	6ADE－D	86	57.7.28～57.8.2	〃　篠林	個人	個人住宅 D地区
43－6	6AGE	80	57.11.5～57.11.13	〃　東前沖	明和町	町道側溝 E地区
43－7	6ABD－F	60	57.11.24～57.11.30	〃　竹川古里	個人	倉庫新築 C地区
43－8	6ADQ－H	175	58.1.22～58.2.12	〃　牛場	個人	駐車場造成 D地区

（43－6次は、非補助金事業）

河田古墳群※（多気町河田字東谷）

事業名　山砂利採取

調査主体　多気町教育委員会（昭和５７年度埋蔵文化財発掘技術者研修生）

調査期間　昭和５７年１０月２５日～昭和５８年２月２３日

調査面積　3,３００㎡

概　　要　当古墳群は、既に３次の調査が行なわれており、今回の調査はＣ支群の一部に相当する。調査の結果、４基の古墳と、古墳時代と平安時代の土坑墓各１基が確認され、このほかにも古墳３基の存在が推定された。古墳は、調査区西半部に集中し、東方は良好な尾根にもかかわらず築造されておらず、古墳の占地に何らかの制約があったものと推測される。確認された古墳は、全て木棺直葬であり、６世紀後半から７世紀前葉に及び、２５号墳が方墳と考えられる以外は全て円墳である。調査区内では最高地に位置する２１号墳は、径約20ｍと最大であり、主体部外から須恵器壷１、杯身５、杯蓋７が出土した。２２号墳は周溝が不明瞭であるが、棺内から須恵器壷・杯身・杯蓋各１点が出土した。２３号墳は攪乱が著しいが、同一主体部に２棺が並葬されており、南棺からは金環２、勾玉１、小玉７、刀子１、鉄鏃２、北棺からは刀子１と骨片が出土した。２４号墳は同一主体部に２体が並葬され、須恵器の壷、高杯各１点と土師器甕２、杯３が出土した。２６号土坑墓内からは、須恵器杯身、平瓶、土師器甕各２点と鉄鏃３点が出土した。このほかに、平安時代後期の灰釉小瓶と皿各１点と土師器皿や鉄片を出土した土坑がある。さらに各地点から、金環、滑石製紡錘車をはじめ、縄文時代の土器や石器、弥生土器、古墳時代須恵器や土師器、室町時代土師器等も出土した。

下田遺跡（勢和村下出江）

事業名　県営揮発油税財源身替農道整備事業

調査主体　三重県教育委員会（新田　洋）

調査期間　昭和５７年１２月１３日～１４日

調査面積　２００㎡

概　　要　櫛田川中流左岸の段丘北端部と、川に向って南へ突き出した丘陵麓部の接点近くに立地し、標高５９ｍ前後である。中世の土師器鍋、皿、山茶椀、陶器（常滑）が多量に表面散布していた。調査は、道路予定地に幅約３.５ｍ、延長約６０ｍのトレンチを設定して実施した。基本層序は、第Ⅰ層：耕作土（灰色で１５cm）、第Ⅱ層：灰黒色砂質土（４０～５０cm）、第Ⅲ層：黒色粘質土（地山で、無遺物層）であり、遺物は、第Ⅱ層と第Ⅲ層の変わり目付近で、中世遺物（土師器、山茶椀）が少量みられた。第Ⅲ層上面が、遺物からみて鎌倉時代～室町時代の生活面と考えられるが、遺構の確認はできなかった。しかし、少量の遺物は残存状態が良好であり、本調査地点では遺構の確認はできなかったが、周辺に遺構（集落跡）の存在は十分に考えられる。

田　丸　城　跡　（玉城町田丸）

事 業 名　村山龍平記念館建設

調査主体　玉城町教育委員会（坪井信義・外城田小学校　大西素行）

調査期間　昭和５７年７月２９日～８月２９日

調査面積　７００㎡

概　　要　田丸城の創建は南北朝時代に始まるが、天正３年（１５７５）織田信雄によって本丸、二の丸、北の丸を備えた堅固な城郭に修築された。今回の調査は教育委員会建物の旧地に当たり、遺構面の遺存状況は悪い。調査の結果、室町時代後期から江戸時代後期の礎石建物３棟、柵列１、溝３条、石組土坑、小ピット群を確認した。遺物は極めて豊富で、山茶椀、天目茶椀、施釉陶器（鉢、甕、壷、椀）、染付椀、皿、土師器（鍋、羽釜、皿）、巴文瓦、寛永通宝などが出土した。

植　松　遺　跡　（玉城町小社字曽根）

事 業 名　下外城田小学校校舎改築

調査主体　玉城町教育委員会（坪井信義・外城田小学校　大西素行）

調査期間　昭和５７年１１月２６日～昭和５８年１月７日

調査面積　1,200㎡

概　　要　小社地区の南側一帯の標高約20mの低台地上にあり、8月に実施した試掘調査の結果、校舎建築予定地の全域に遺構が確認されたため本調査を実施した。遺構は弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての方形竪穴住居22棟のほか、鎌倉時代の掘立柱建物1棟と中世墓と思われる石組みを持つ土坑2基と溝4条を検出した。竪穴住居には大小二種類があり、大型は一辺8m、小型は一辺6m以下で、両グループとも床面中央部に炉跡があり、また、周溝を持つ例は少ない。出土遺物は、弥生土器と古式土師器が主体をなすが、住居跡の重複関係から細かい時期差が抽出されるものと思われる。

小　姫　塚（度会町棚橋字宮ノ西）

事 業 名　土砂採取

調査主体　度会町遺跡調査会（小俣中学校　中西　健）

調査期間　昭和57年5月22日～23日

調査面積　80㎡

概　　要　宮川左岸の標高30mの山腹に位置する中世墓であり、調査の結果、墓地部分と階段部分が検出された。墓地部分は、ほぼ方形（3×2.6m）で、西辺と東辺で南北方向に並ぶ列石を持つ。西辺は比較的整然としており、部分的に二段ないし三段に積まれており、東辺は大型石（最長で75cm、最厚で40cm）が4個以上並び、さらに90cm程東側には階段部分の列石がある。両辺の間からは、五輪塔、蔵骨器と考えられる土師器鍋等が出土した。階段部分は、全長6mで、勾配に緩急があるが、その間の比高はおよそ3mである。最上段は二段で、間隔は狭く、他は30～50cmの間隔で1～2個、場所により数個の石が並んでいた。

樋ノ谷遺跡（大宮町神原字樋ノ谷）

事 業 名　県営畜産環境整備事業

調査主体　三重県教育委員会（高見宜雄）

調査期間　昭和５７年１１月９日～昭和５８年１月１１日

調査面積　1,４５０㎡

概　　要　宮川中流域沿岸の河岸段丘と、標高１５０ｍ程度の山より延びる舌状尾根の端部が接する場所に位置し、標高は約８０ｍで、その北側斜面に立地する。遺構は、縄文時代の竪穴住居２棟、土坑３０数基である。住居の内１棟は早期もので、３×3.６ｍの長円形をしている。埋土からはネガティブな楕円文をはじめ、山形文、格子目文を施した５形態の押型文土器が出土している。遺物としては、上記押型文土器の他、勝坂式並行・加曽Ｅ式並行期が出土している。石器では、石鏃、石斧、石錘の他に玦状耳飾が出土した。

なお、当遺跡の早期竪穴住居跡は、地元の要望により埋め戻して保存されることとなった。

殿垣外遺跡△（伊勢市西豊浜町字殿垣外）

事業名　豊浜西小学校校舎増築

調査主体　伊勢市教育委員会（岩中淳之）

調査期間　昭和５７年４月１６日

調査面積　５０㎡

概　　要　豊浜西小学校グランド内及び付近一帯に広がる飛鳥・奈良時代～鎌倉時代に至る複合遺跡で、昭和５５年８月の調査では、竪穴住居、掘立柱建物、井戸、溝、土坑等の多数の遺構と遺物が確認されている。今回の調査は、そのすぐ北側に位置するところで総面積２８０㎡のうち５０㎡の試掘調査を実施した。その結果、旧校舎の基礎等で攪乱されており、遺構は確認されなかった。

塚の上Ａ遺跡（伊勢市円座町字塚の上）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（高見宜雄）

調査期間　昭和５７年１０月４日～１０月１８日

調査面積　４００㎡

概　　要　宮川右岸の標高約２５ｍの台地上に位置し、昨年度発掘調査を実施した中新田遺跡にも近い排水路部分のみの調査であったため、遺構と遺物共に極めて少なかった。遺構としては、溝４条と数個のピットが検出された。溝は幅約２ｍで南西より北東に走り、集落を区画するものと考えられる。遺物は、山茶椀、土師器細片がほとんどで鎌倉時代のものが中心である。

調査面積が狭いため、遺跡の全貌は不明であるが、近辺には多量の土器片が散布するため、集落跡の存在が考えられる。

大　薮　遺　跡　△　（伊勢市磯町大薮）

事 業 名　中部電力株式会社鉄塔建設工事

調査主体　伊勢市教育委員会（岩中淳之）

調査期間　昭和５７年８月２３日～９月１日

調査面積　１５６㎡

概　　要　外城田川左岸に位置する縄文～鎌倉時代に至る複合遺跡で、昭和４７年の南勢バイパス工事に伴う調査では、弥生後期方形周溝墓、平安時代の掘立柱建物、井戸等の遺構、縄文早期の押型文土器をはじめ多くの遺物が確認されている。今回の調査は、遺跡の西南端に位置する所であったためか、先の調査でみられた黒色土の推積はなく、その層位は耕作土、黒褐色土、地山であった。遺構は、非常に少なく柱穴（時期不明）、土坑（風倒木穴か？）が検出された。遺物は、弥生後期甕片、山茶椀、土師器、フレイクが少量出土した。

天　神　遺　跡　△　（阿児町国府）

事 業 名　県道安乗港線新設事業

調査主体　三重県教育委員会（中村信裕）

調査期間　昭和５７年６月１０日～６月１４日

調査面積　８０㎡

概　　要　昭和５４年度に発掘調査された殿畑遺跡の北東に続く道路予定地内に４×２ｍの試掘坑１０カ所の調査を実施した。その結果、４カ所の試掘坑から

遺構（溝４条）が検出された。また、これらの試掘坑から土師器小皿が大量に重なり合った状態で出土し、他に山茶椀、青磁、常滑甕片も出土した。時期として、鎌倉時代から室町時代が考えられ、近くの国府城との関連がうかがわれる。

下　郡　遺　跡　（上野市下郡）

事 業 名　一級河川木津川改修工事事業

調査主体　三重県教育委員会（中森英夫）

調査期間　昭和５７年１１月１日～昭和５８年２月１７日

調査面積　１,０００㎡

概　　要　本年度は、依那古橋の北西部を調査区とした。遺構では、江戸時代の鍛冶工房施設をもつ屋敷跡を検出した。全体には、川原石の石組、集石遺構が多い。それらのうち、長径２０～４０cmの川原石を２～３段組み、平面形で5.3×３ｍの石組は、その埋土に焼土と鉄滓を確認した。その他、池状遺構、井戸平面形２×３ｍ、深さ３０×４０cmで底部と四壁に小石をはりめぐらす土坑、長径２０×４０cmの川原石１～２段が長方形にめぐる土坑等がある。また、東西方向の溝数条もある。遺物には、鍛冶工房跡の存在を示すものとして、多数の鉄滓や鞴の羽口が出土した。日常生活使用のものでは、擂鉢、土師質小皿、鍋、瓦質鍋、磁器椀、天目茶椀等がある。

西明寺（さいみようじ）遺跡※（上野市西明寺字西明寺）

事 業 名　重要遺跡確認

調査主体　上野市教育委員会（西森平之）

調査期間　昭和５７年１１月８日～昭和５８年２月２８日

調査面積　１,４００㎡

概　　要　本年度は、３カ年計画の西明寺遺跡発掘調査の最終年度にあたり、伊賀国分寺跡の北部隣接地と南西部隣接地について発掘調査を実施した。両地区とも、戦後からの開拓等で、かなりの削平を受けていたが、北部隣接地の掘立

柱建物（２×２間以上）２棟と、３×３間以上の建物で比較的大きな掘り方を持つ柱穴を２列、やや新しい南北溝１条を検出した。さらに、南西部隣接地で平行に走る溝２条と、それに交わる溝１条、土坑等を検出した。遺物としては国分寺指定地内で過去に採集された物と同型式の軒丸瓦片、軒平瓦片の他、緑釉杯、灰釉皿、須恵器壷など、奈良時代末～平安時代末の遺物が出土した。

才良（ざいりよう）遺跡（上野市才良）

事 業 名　丸山中学校改築

調査主体　上野市教育委員会（西森平之）

調査期間　昭和５７年５月２６日～７月３日

調査面積　４２０㎡

概　　要　木津川上流右岸の舌状台地上。試堀調査では、上部全面にわたって瓦器片、土師器片が見られ、また、中庭西部の南北溝の底から、昭和２２～２３年頃に採集された物と同種の長頸壷、大型甕、高杯等の弥生土器が多出した。本発掘の結果、畿内第５様式に相当する土器、溝状遺構と共に、それを上部から攪乱する形で、中世の石組池状遺構、溝、乱石群、石列土坑を多数検出した。また、その中からは、高台の退化した瓦器椀や中世陶器が数多く出土した。弥生土器を初めとする遺物に見るべき物は多いが、住居跡等は検出されなかった。また、才良寺跡についても、その存在を明らかにする遺構、遺物は認められなかった。

田　中　遺　跡　※　（大山田村広瀬）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（森前　稔）

調査期間　昭和５７年６月７日～７月３１日

調査面積　約６００㎡

概　　要　服部川左岸の標高約２２６ｍの下位段丘上。昭和５５年５月の試掘調査で、柱穴、溝などの遺構や土師器、須恵器などの遺物が確認され、本調査の

結果表土下５０cmで、中世墓（石組、素掘）２基、３×２間以上の掘立柱建物１棟、素掘井戸１基などを検出した。瓦器、土師器、陶磁器などが埋土中より出土した。さらに、表土下約1.２ｍは、横穴式石室を持つ古墳の残存を確認した。西に開口した羨道は新道工事で破壊されて、規模等は不明であるが、玄室は幅1.６ｍの奥壁、２～３段の石が残る両壁（北壁3.７ｍ、南壁2.７ｍ残る）幅1.６～2.１ｍ・奥行3.８ｍの礫床等が残っていた。玄室内で原位置を保つ遺物としては、土師器甕、鉄鏃がある。埋土からは、須恵器杯、高杯、刀鍔などが出土した。

歌　野　遺　跡　（大山田村広瀬字歌野）

事 業 名　県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業

調査主体　三重県教育委員会（中森英夫）

調査期間　昭和５７年８月５日～１０月１０日

調査面積　1,１００㎡

概　　要　服部川左岸、馬野川右岸の間の標高約２３０ｍの低位河岸段丘上。調査は、農道計画部分のみを対象とした。その結界、奈良時代後半から平安時代初期にかけての集落跡が確認された。主な遺構は、竪穴住居２８棟で、一辺３～５ｍの方形であり、複雑に重複している。ほとんどは、北辺または東辺にカマドをもつ。中央や周囲に石をおいた残存状態の良いものも２基ある。その１棟には、土師器の長胴甕３個体の底をぬき、２個を横に連結し、１個は底を上に立てた煙道と考えられる施設を検出した。遺物は、土師器杯、甕、須恵器杯、蓋、甕、鉄斧、紡錘車等が出土した。溝の上層からは、中空の土馬の首と後胴部が出土した。

道ノ下遺跡※（大山田村阿波字道ノ下）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（新田　洋）

調査期間　昭和５８年２月１４日～２月１７日

調査面積　１００㎡

概　　要　服部川左岸の標高約２７４ｍで、新大仏寺の南１００ｍに位置し、現況は水田である。調査の結果、土層の基本的層序は、第Ⅰ層：耕土、第Ⅱ層：床土、第Ⅲ層：褐灰色砂質粘土（有機物多く含む）、地山（黄褐色粘土）となる。Ⅲ層が遺物包含層で平安時代末～鎌倉時代の土師器皿、鍋、瓦器椀、皿、常滑焼を含む。遺構としては柱穴がみられる。調査が少範囲のため不明な点が多いが桁行不明、梁行２間の掘立柱建物１棟を検出した。他は、土坑、溝である。現地は棚田となっており、その中位にあたるが、その周辺、特に北の高所には中世の集落跡が広がるものと考えられる。

宮田氏城跡（阿山町丸柱字向出）

事業名　住宅および製陶場建設

調査主体　阿山町教育委員会（県文化財調査員　寺岡光三）

調査期間　昭和５７年５月３０日～６月７日

調査面積　２５０㎡

概　　要　丸柱向出集落の西側に広がる標高約２７４ｍの丘陵上に位置する。丘陵尾根を堀で切断し、堀の北側に四方を土塁で囲まれた２６ｍ×２５ｍの主郭を配し、堀の南側には小さな郭を配する。今回の調査は、既に削平されている北土塁と郭の北部分に限った。調査区の大半が土塁下部にあたるため、明確な遺構は検出されなかった。遺物には、近世伊賀焼の鍋、水注などが出土した。また、今回の事業地外である主郭の東斜面には、伊賀焼の近世窯の一部が確認された。

上東野（かみひがしの）遺跡※（名張市赤目町）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（中村信裕）

調査期間　昭和５７年１１月６日～１２月１１日

調査面積　６５０㎡

概　　要　宇陀川の支流滝川左岸の標高約２２０ｍに位置する。主要な遺構として、竪穴住居８棟、小石室墓１基が検出された。竪穴住居８棟は古墳時代初期と考えられ、すべて方形で１辺５ｍのものから１辺８ｍ以上の大型住居もある。小石室墓は、河原石を用いた長さ約１.９×０.８ｍの方形で、床面に扁平な敷石があり、古墳時代後期のものと考えられる。遺物として、古墳時代前期の土師器壷・甕・高杯・鉢が大量に出土し、少ないが須恵器杯、瓦器椀・皿、石鏃などもある。

辻垣内遺跡※（名張市赤目町）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（森前　稔　駒田利治）

調査期間　昭和５７年８月２日～昭和５８年３月２５日

調査面積　７,０００㎡

概　　要　名張盆地南西部を流れる宇陀川支流滝川左岸の標高２００～２２０ｍの扇状地。縄文時代から近世まで各時代の遺物が散布。調査の結果、東地区は縄文時代の遺物が多く、西地区では古墳時代前期と後期の竪穴住居跡を検出。南地区では主として古墳時代後期の竪穴住居跡を検出。

縄文時代では、中期初頭の爪形文土器及び後期と晩期土器片がある。石器は石鏃、石錐、石錘、石斧、石匙、スクレイパーなど量も種類とも豊富である。弥生時代では径約７ｍの円形竪穴住居跡と土坑があり、中期の小形壷、蓋、壷などが出土した。古墳時代では、古墳５基、小石室２基、竪穴住居跡７５棟、掘立柱建物跡１５棟が検出された。中世以降では、墓石２基、土坑墓４基などが検出され、磁器、天目茶椀、瓦、五輪塔、石仏などが出土した。

号	規模		内部構造	副葬品			備考
	径	高		須恵器	土師器	鉄器	
1（方）	15ｍ		横穴式石室	杯、甕	杯	鏃	調査後盛土保存
2（方）	14	12					現状保存
3（不明）							〃
4（〃）							事業地内周溝調査
5（方）	14		横穴式石室	高杯、長頸壷、四耳壷、平瓶			調査後削平

赤目壇遺跡（名張市赤目町壇字大垣内）

事業名　赤目小学校体育館建設

調査主体　名張市遺跡調査会（名張市教育委員会　水口昌也）

調査期間　昭和５７年５月１０日～６月５日

調査面積　５００㎡

概　　要　名張市の南部、近鉄赤目口駅より南東にひろがる台地及び周辺は、縄文時代から近世に至る様々な遺物の散布をみる広範囲な遺跡である。その台地のほぼ中央尾根筋にあたる地点に赤目小学校が位置し、昭和５４年の校舎改築工事に伴う調査で、古墳時代前期の竪穴住居、後期の土坑、柱穴群、室町時代の大溝などが確認されている。今回の調査地点は前回の南西部に続き、建設予定地全体を調査した。その結果、北東部は土取りのため削平されており遺構は確認できなかった。中央部から南西部にかけて古墳時代後期の土坑４基と柱穴を数個検出した。土坑のうち３基は、直径７０～８０cmの竪穴で、埋土より土師器甕、須恵器杯等が出土した。

鴻之巣遺跡（名張市夏見字鴻之巣）

事業名　土地区画整理事業

調査主体　名張市遺跡調査会（名張市教育委員会　水口昌也）

調査期間　昭和５７年６月１９日～１２月２５日

調査面積　6,７００㎡

概　　要　名張市の中央部、男山の西より派生した丘陵上に位置する。調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居８棟と飛鳥時代の竪穴住居２２棟と土坑、奈良時代の掘立柱建物２８棟と井戸１基、土器溜め、土坑等を検出した。掘立柱建物のうち束柱をもつ倉庫様建物が９棟あり、北部と西部に集中している。掘立柱建物の中で最大のものは、東西両面に廂をもち総床面積１１３.２平方㎡を計る。建物の多くは、一辺８０cm前後の方形の掘方に３０cm前後の柱を建てたもので真北に近い棟方向をもつ。また、建物に重複がみられることにより数次の建替えが考えられる。遺物は、各遺構に伴う土器と数十個を数える土錘、刀子、土

馬、円面硯２個体分、銅製帯金具（蛇尾１個）等が出土した。これらの出土物とともに、建物の多くは棟方向を南北あるいは東西にそろえるなど配置に計画性がうかがわれ、地方においては、一般集落を想定するよりも、官衙あるいは有力豪族の屋敷の一部である可能性が強い。

下川原遺跡（名張市夏見字浅尾）

事業名　中部電力（株）名張営業所新築工事

調査主体　名張市遺跡調査会（名張市教育委員会　水口昌也）

調査期間　昭和５７年２月１５日～３月１５日

調査面積　９００㎡

概　　要　名張市の中央部、名張川南岸の微高地端部に位置し、周辺は条理地割の残る水田である。調査の結果、東端より古墳時代前期の竪穴住居を２棟検出した。この時期の住居跡は、山間丘陵上の人参峠、白早稲、土山遺跡と台地上の赤目壇遺跡から確認されており、今回の盆地低部よりの確認と合わせ、古墳時代前期布留式の時期には全地域的に集落数が増加するものと考えられる。ただし、市内では須恵器出現以降６世紀後半までの住居は、ほとんど確認されていない。また北側からは、古墳時代後期の須恵器を１点だけ副葬した土坑墓３基、７世紀前半の、内面にかえりの付く蓋の宝珠つまみを欠いた杯蓋を２個ならべ枕とした小石室を１基検出した。同様の杯身あるいは蓋を２個ならべて枕とする例は、６世紀後半の尻矢５号墳（小石室）にもみられる。南側からは、青磁片、瓦器を伴う２×３間の掘立柱建物を検出した。その他、包含層から弥生中期の土器片と、時期不明の土坑を４基検出した。

奥出遺跡（名張市夏見字奥出）

事業名　資材置場建設

調査主体　名張市遺跡調査会（門田了三）

調査期間　昭和５７年４月１６日～６月１５日

調査面積　１,０００㎡

概　　要　名張市東南部、名張川と青蓮寺川の合流点より南西に広がる丘陵の先端尾根に位置し、先端部には土塁を伴う中世城館が、南西斜面には横穴式石室を有する古墳群が確認されている。文化財パトロールで造成工事を発見し、造成工事の一時中止と調査費用負担の協力を得た。調査の結果、尾根筋より３基の横穴式石室の基底部を、傾斜がゆるやかになる尾根平坦部より、弥生後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居３棟、古墳時代後期の小石室２基、土坑墓３基、中世城館に伴う堀切等を検出した。遺物は、各遺構に伴う土器と、縄文晩期の深鉢、古墳前期の石製合子蓋、後期の勾玉、管玉、ガラス小玉等が出土した。内でも碧玉製合子が、竪穴住居跡から出土した点は注目される。

小　谷　遺　跡　（名張市蔵持町芝出字小谷）

事 業 名　土地区画整理事業

調査主体　名張市遺跡調査会（門田了三）

調査期間　昭和５７年４月１０日～９月３日

調査面積　２,８００㎡

概　　要　名張市の中央部、男山より西に派生した丘陵の西側に位置し、北に開いた台地端部にあたる。東側の丘陵に鴻之巣遺跡がある。調査の結果、焼土や石臼を伴う竪穴住居２棟と掘立柱建物３棟（他に１０～５０cmの柱穴を多数検出しており、現在、建物を検討中）壁面に貼石を施した土坑や、石を多数投げこんだ土坑、それに接続する溝等を検出した。調査区中央からは、［字形に回る浅い溝があり、内側から多数の柱穴とともに、陶製大甕の口縁を下にして埋めた遺構を検出した。遺物は、青磁、瀬戸平椀、天目等の陶磁器、土師器、須恵器、瓦質土器、古銭、砥石等が出土しており１５～１６世紀の集落と推定される。

辻　堂　遺　跡　（名張市安部田字辻堂）

事 業 名　地区再編農業構造改善事業

調査主体　名張市遺跡調査会（門田了三）

調査期間　昭和５７年１２月８日～１２月１４日

調査面積　１１０㎡

概　　要　名張市南西部の宇陀川の北岸は、西の大和高原が断層となって落ち込み、裾部が丘陵として広がる。辻堂遺跡は、大和への主要路である笠間峠の麓坂ノ下集落より続く北東丘陵端部の微高地に位置する。微高地の畑地部分全面に、須恵器、瓦器の散布がみられたが、試掘調査の結果、畑地部分は表土下地山に至るまで多量の礫を含んだ攪乱層で、遺構は確認されず、微量の遺物の出土をみただけである。水田部分の約２００㎡は、耕土下１ｍ付近に縄文晩期の包含層がみられ、削平される１１０㎡について調査を実施した。その結果、調査区南東部分に幅３ｍ、厚さ２０cmほどの砂質礫混りの包含層が確認され、十数個体分の晩期後半の土器片と、弥生前期の土器底部が出土した。土層の状態から、この地がたびたび山崩れ等の自然災害にあっており、埋没深度が深かったため、この包含層だけが遺存していたものと思われる。遺構は検出されなかった。

深　ケ　遺　跡　（名張市滝之原字深ケ）

事 業 名　滝之原小学校校舎建設

調査主体　名張市遺跡調査会（名張市教育委員会　水口昌也）

調査期間　昭和５７年１１月１７日～１１月２６日

調査面積　１９０㎡

概　　要　名張市の北東部、小波田川上流右岸の西方に面する緩傾斜地にあり、現況は水田である。滝之原小学校の改築に伴う敷地造成地の約３万㎡を対象に試掘坑（２×４ｍ）を２３カ所設定し、遺跡の有無及び範囲確認のため調査を実施した。その結果、いずれの試掘坑からも遺構は検出されなかったが、上層攪乱土内からは、瓦器片を中心に土師器、瀬戸、信楽などの陶器片及び縄文晩期の土器片、サヌカイト製石鏃、スクレーパーなどが出土した。

津ノ森遺跡※（熊野市有馬町津ノ森ほか）

事業名　個人住宅

調査主体　熊野市教育委員会（五郷中学校　古部　均）

調査期間　昭和５７年７月２４日～８月１５日

調査面積　１６０㎡

概　　要　熊野灘沿岸沖積地の標高５～１２ｍの微高地上に位置する南紀地方屈指の遺跡である。今年度の調査は、遺跡の範囲確認調査を兼ねて、Ｅ～Ｈ地区の４カ所で行った。Ｅ、Ｈ地区は、一段低い沖積地にあたり、遺構と遺物は殆どなかった。市史跡有馬本城跡では、中世末期と考えられる石組の遺構、若干の遺物を検出した。遺跡の中央部にあたるＧ地区では、弥生時代の土坑に伴った、中期～後期の壷、甕が出土した。また、上層では、柱穴内に根石をもつ掘立柱建物の一部を検出し、伴出遺物から鎌倉時代のものと考えられる。この他に、奈良時代の土師器、須恵器も少数であるが出土した。

Ⅳ 調査結果の公開

1. 三重県埋蔵文化財展

昭和40年度以後、三重県教育委員会が実施している埋蔵文化財の発掘調査は約５３０件あり、出土遺物は整理箱で約15,000箱に達している。これらの膨大な遺物を含めて、調査結果の公開を望む県民の声が多数寄せられているため、昭和56年度から三重県埋蔵文化財展を開催している。

本年度は、「発掘された中世のくらし」をテーマにして、中世遺跡の代表的な遺物約350点を系統的に展示した。なお、展示期間中に随時展示品説明を行うとともに、スライドを映写して、文化財保護思想の普及をはかった。入場者総数は7,519名であった。

〔三重県埋蔵文化財展開催要項〕

1 趣旨

三重県教育委員会が発掘調査した遺跡から出土した遺物を中心に２００余点を公開、展示することにより、埋蔵文化財保護思想の普及、高揚をはかる。

2 主催・協賛

(1) 主催　三重県教育委員会

(2) 協賛　北勢教育事務所管内各市町村教育委員会

3 期間

昭和５７年８月１３日(金)～８月１８日(水)

4 場所

四日市近鉄百貨店　５階催場

5 内容

(1) 遺物展示

(2) 写真および解説パネル

井戸断面カラー写真 他　５０点

展示品	数量	出土遺跡	保管者等
縄文土器	3	蛇亀橋遺跡（嬉野町）	県教委
弥生土器	6	納所遺跡（津市）他	〃
土師器	10	北堀池遺跡（上野市）他	〃
須恵器	10	茶臼山古墳（亀山市）	〃

展示品	数量	出土遺跡	保管者等
須恵器	10	大塚古墳群（安濃町）	県教委
〃	10	西山・新野遺跡（東員町）他	〃
灰釉陶器	10	七和古窯跡（桑名市）他	〃
瓦	30	川原井瓦窯跡（鈴鹿市）他	〃
緑釉陶器	3	大木ノ輪遺跡（鈴鹿市）他	〃
山茶椀	40	大木ノ輪遺跡（鈴鹿市）他	〃
〃	10	小判田遺跡（四日市市）	市教委
蔵骨器	15	経塚中世墓（大安町）他	県・町教委
中世土師器	30	山添遺跡（松阪市）他	県教委
〃	10	正法寺山荘跡（関町）	町教委
陶器	15	南山遺跡（松阪市）他	市・県教委
磁器	5	平生遺跡（嬉野町）他	県教委
木製品	15	茂福城跡（四日市市）他	市・県教委
井戸枠	1	南山遺跡（松阪市）	市教委
金属製品			
古銭	100	多倉田遺跡（安濃町）他	県教委
鋸等	3	下郡遺跡（上野市）他	〃
石製品			
五輪塔	7	経塚中世墓（大安町）他	〃
石臼等	5	殿畑遺跡（阿児町）他	〃

2. 発掘調査報告会

各種開発事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査結果の公開については、これまで現地説明会を開催しているが、参加者が地域的に偏る傾向があることや、他地域の発掘調査についても知りたいとの要望が多い。そのため県及び市町村教育委員会と各遺跡調査会における発掘調査結果のうち、特に重要な成果が得られたものを選定し、スライド映写等による報告会を本年度から開催することとした。なお、今回は三重県埋蔵文化財展の開催地の四日市市で開催することによって、同展への理解を深めるとともに、文化財保護思想の普及をはかることとし、約100名の参加者があった。

〔三重県埋蔵文化財発掘調査報告会開催要項〕

1. 目　的

昭和５６年度中に実施した県下の遺跡発掘調査件数は６０件余に及ぶ。これらは、県教育委員会主体のものと市町村教育委員会及び各遺跡調査会主体のものに分けられ、調査途中ないしは、その終了後に現地説明会を開催し、埋蔵文化財への理解と認識を広めている。そこで、さらに埋蔵文化財の理解、保護思想の普及をはかるため、一般公開という趣旨のもと、各年度毎の発掘調査の中間的成果の公表を行ない、県民の文化的要求にこたえるものである。

2. 内　容

1）主催は、三重県教育委員会があたり、開催場所は各市町村の公共施設に置き、開催地市町村教育委員会の協賛のもとに行なう。

2）報告会は、一般公開とし３時間程度、前年度に発掘調査された遺跡のうちから１０件程度を取り上げ、原則として各遺跡調査担当者が調査結果をスライド等を併用して報告を行なう。

（１遺跡15～20分程度とする）

3. 第１回報告会

〔日　時〕　昭和５７年８月７日(土)

午後１時30分～４時30分

〔場　所〕　四日市市・中部地区市民センター　４Ｆ

大会議室（100人程度収容可）

〔内　容〕　1）あいさつ

2）昭和56年度の調査概況

3）各遺跡報告

報　告　遺　跡

（県）

1. 蛇亀橋遺跡
2. 山ノ下古墳群
3. 天王平・尾津平遺跡
4. 蓮池代遺跡
5. 斎宮跡

（市町村）

1. 正法寺山荘跡　（関　町）
2. 侍岡中世墓　（磯部町）
3. 西明寺遺跡　（上野市）
4. 原出遺跡　（名張市）
5. 西高山古墳群　（鈴鹿市）

2. 発掘遺跡現地説明会

発掘調査の途中あるいは終了時には、地域の人々に対し、文化財保護について理解を深めて頂くため、現地説明会を開催し、調査結果について報告を行っている。三重の文化財と自然を守る会等の協力を得て、多数の方が参加された。

遺跡名	所在地	主催者	開催日	参加人数
起A遺跡	鈴鹿市安塚町起	県教育委員会	57.11.27	40
前田古墳	安濃町中川	〃	57. 8. 2	30
西村・愛場遺跡	多気郡明和町池村	〃	57. 9.23	40
樋ノ谷遺跡	度会郡大宮町神原	〃	57.12.26	60
田中遺跡	阿山郡大山田村広瀬字田中	〃	57. 7.25	30
歌野遺跡	〃 〃 〃歌野	〃	57.10.11	40
辻垣内・上東野遺跡	名張市赤目町	〃	57.12.11	150
辻垣内遺跡	〃 〃	〃	57.12.25	80
〃	〃 〃	〃	58. 1.29	50
斎宮跡（第42次）	多気郡明和町斎宮	斎宮跡調査事務所	57. 6.20	220
〃（第44次）	〃 〃 〃	〃	57. 9. 5	290
〃（第45次）	〃 〃 〃	〃	57.11. 3	180
〃（第46次）	〃 〃 〃	〃	58. 2. 6	190
山田城跡	員弁郡東員町山田	町教育委員会	57.11.14	120
大久保遺跡	三重郡菰野町潤田	〃	58. 2.13	20
西川遺跡	鈴鹿市郡山町字西川	市教育委員会	57. 4.11	43
城坂館跡	安芸郡安濃町	町教育委員会	57. 9. 5	80
北畠氏館跡	一志郡美杉村	村教育委員会	57. 9.18	50
草山遺跡（1次）	松阪市久保町	市教育委員会	57. 8.28	80
〃（2次）	〃	〃	57.12.19	80
河田古墳群	多気郡多気町河田字東谷	町教育委員会	58. 2.19	80
発シB遺跡	〃 明和町有爾中字発シ	〃	57. 9. 5	130
植松遺跡	度会郡玉城町小社曽根	〃	58. 1.16	190
奥出遺跡	名張市夏見	市教委・市遺跡調査会	57. 6.13	60
鴻ノ巣遺跡	〃 〃	〃 〃	57.12.25	80

3. 保管遺物等の貸出し・写真等の掲載許可

教育委員会が保管している県内各地から出土した遺物の展示会等への貸出し、写真撮影、掲載等については、一定の手続きのもとに応じている。

〔保管遺物等の貸出し〕

申請者	目的	貸出品	期間	許可日
大成小学校	社会科教材	納所遺跡　弥生土器 他 24点	57. 4.24	57. 4.22
名古屋市博物館	特別展「東海の縄文時代」	東庄内遺跡　縄文土器　4点 西出遺跡　土　版　1点	57. 7.14 ～57. 9.15	57. 5.17
竹中大工道具館	レプリカ作製	下郡遺跡　鋸	57. 9. 1 ～57.11.30	57. 9. 1
(財)元興寺文化財研究所	「保存科学と古代の技術展」	納所遺跡　石斧の柄 他　4点 北堀池遺跡　弓、槽　2点	57.10.18 ～57.11.14	57.10.14
皇学館大学考古学研究会	倉陵祭展示	月よべ遺跡　弥生土器　3点	57.10.29 ～57.11. 4	57.10.29
鈴鹿市教育委員会	市制40周年記念文化財展	東庄内B遺跡　深鉢　1点 起A遺跡　弥生土器　2点 〃　炭化米 川原井瓦窯　国分寺瓦　4点 〃　遺跡　浄瓶　1点 大木ノ輪遺跡　緑釉椀　1点	57.11.29 ～ 57.12. 6	57.11.22
明和町中央公民館	常設展示	斎宮跡出土品　13点	57. 5. 7 ～58. 5. 6	57. 5. 4
〃	明和町文化祭特別展示	〃　47点	57.11. 2 ～57.11. 6	57.11. 2
明和町立斎宮小学校	社会科教材	〃　22点	57.11.19 ～58.11.18	57.11.17

〔写真等の掲載許可〕

申請者	掲載書名	掲載資料	許可日
至文堂	日本の美術「弥生時代」	納所遺跡　竹製櫛　1点	57. 4. 6
小学館	名宝日本の美術　第1巻	東庄内A遺跡　深鉢　1点	57. 5. 8
名古屋市博物館	展示図録	東庄内遺跡出土品 他 5点	57. 5.17
柏書房	日本歴史地図	北堀池遺跡実測図	57. 8.30
(財)元興寺文化財研究所	展示図録	納所遺跡　出土品　4点 北堀池遺跡　〃　2点	57.10.14
森茂男	三重の歴史ものがたり	納所遺跡　平鍬 他　9点	58. 1. 7
大安町教育委員会	大安町20年史	大安経塚出土品　2点	58. 1.14
大阪書籍㈱	神話と古代史	斎宮跡第19次調査全景　1点	57. 8.19
講談社	日本の神々	斎宮跡全景　1点	57. 8.31
吉川密範	毎日新聞掲載資料	斎宮跡第44次調査全景　1点	57. 9.16
井上喜久男	考古学ジャーナル10月臨時増刊号	斎宮跡二彩稜椀　1点	57.10. 5
森茂男	三重の歴史物語	斎宮跡発掘調査遺構全景　4点 斎宮跡出土品　4点	58. 1.28

付〔１〕　〔三重県文化財調査員設置要綱〕

（目　　的）

第１条　三重県内に所在する埋蔵文化財を中心とし、必要に応じてその他の有形文化財、民俗文化財、史跡名勝天然記念物（以下「文化財」という。）の保護の万全を図るため、三重県文化財調査員（以下「文化財調査員」という。）を設置する。

（任　　務）

第２条　文化財調査員は、次に掲げる調査事項に従事する。

①　三重県文化財パトロール事業における文化財の巡視及び調査

②　国、県営の各種土木建設事業における文化財の分布及び確認調査

③　埋蔵文化財発掘調査における調査協力

④　その他、文化財の保護に関し必要と認める調査

（定　　数）

第３条　文化財調査員の定数は５０人以内とする。

（任　　用）

第４条　文化財調査員は、地方公務員法第３条第３項第３号の規定により任用する。

2.　文化財調査員は、大学において考古学、歴史学を専攻した者又は、それに準ずる専門的知識を有する者のうちから、教育委員会が任命する。

3.　文化財調査員の任用期間は１年とし、再任することができる。

（勤務条件等）

第５条　文化財調査員の勤務条件、事務処理その他職務に関し必要な事項は、教育長の承認を得て別に定める。

（報酬の額）

第６条　文化財調査員の報酬の額は、特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和３６年条例第３号）第２条の別表の規定に基づき教育長が別に定める。

（費用弁償）

第７条　文化財調査員の費用弁償の額は、職員等の旅費に関する条例（昭和32年条例第46号）に規定する行政職４等級の職務にある者に支給される旅費の額に相当する額とする。

（公務災害補償）

第８条　文化財調査員にかかる公務災害補償は、議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例（昭和42年条例第43号）の定めるところによる。

（補　　則）

第９条　この要綱に定めるもののほか、文化財調査員に関し必要な事項は、教育長の承認を得て別に定める。

附　　則

1.　この要綱は、昭和５３年５月１日から施行する。

2.　三重県文化財調査員設置要綱（昭和５４年４月２７日教育長決裁）は、廃止する。

付〔２〕　昭和５７年度三重県文化財調査員一覧表

地区	氏名	勤務先	勤務地	勤務先電話
桑名・員弁・三重・四日市・鈴鹿・亀山	伊東春夫	桑名高		
	野田修久	長島中部小		
	田中欣治	三重短大		
	佐々木学	朝上小		
	片岡雅章	桑名高		
	森下明	大矢知興譲小		
	大場範久	石薬師高		
	保条馨	※大木中		
	石井剛	菰野中		
	安川富春	中部中		
	太田元二郎	成徳中		
	桐生定己	常磐中		
津・安芸・一志・久居	河合良成	南郊中		
	浅生悦生	西郊中		
	下井彰	東観中		
	曽野実	高茶屋小		
	田中喜久雄	長野小		
	杉谷政樹	菰野高		
松阪・	世古且守	松阪第二小		
	奥義次	松阪商高		
	奥谷義一	※締水小		

地区	氏名	勤務先	勤務地	勤務先電話
多気・飯南・飯高	福田　昭	多気中		
	岡本好雅	山室山小		
	河合　明	松阪工高		
	三井博之	粥見中		
	前川嘉広	花岡小		
	増田安生	明和中		
伊勢・度会・鳥羽・志摩	中西　健	小俣中		
	山崎富三郎	※早修小		
	村上喜雄	小浜小		
	御村精治	小俣中		
	川添昭博	浜島中		
	竹内正弘	鵜方小		
	藪谷尚子	大湊小		
	中世古祥道	自営		
	伊藤　保	自営		
	大西素行	外城田小		
上野・名張・阿山・名賀	森川桜男	自営		
	松山謙治	東小		
	岡本武和	柘植小		
	奥西　勲	箕曲小		
	松鹿昭二	名張高		
	寺岡光三	会社員		

地区	氏　　名	勤　務　先	勤　　務　　地	勤務先電話
	仁保晋作	高尾小		
	福井健二	郵便局員		
尾鷲・北牟婁	伊藤　良	団体役員		
	湊　章治	長島高		
熊野・南牟婁	嶋　正央	自　営		
	牧野　弘	※井戸小		
	田中安弘	遊木小		

（備　考）

文化財調査員数　　50名

北　勢	12名	上　野	8名
中　勢	6	尾　鷲	2
松　阪	9	熊　野	3
南勢志摩	10		

勤務先欄※印は、教頭職

勤務地と本人の住所が異なる場合は、本人の居住地を（　　）に示す。

付〔３〕　〔昭和５７年度　三重県文化財パトロール実施要項〕

1. 趣　　旨

県下における指定文化財（国・県）及び埋蔵文化財包蔵地（以下文化財という。）を巡視し常時文化財の管理・保存状況を把握し、適切な処置を講じて、文化財保護の万全を期する。

2. 活動内容

(1) 文化財管理、保存状況把握のための巡視

(2) 所有者等に対する文化財の保護管理指導

(3) 巡視、保護管理指導についての結果報告

(4) 文化財保護思想についての普及活動

(5) その他文化財の保護保存に関すること

3. 期　　間

昭和57年５月１日～昭和58年３月31日

4. 事業の実施について

(1) 事業は、各教育事務所が執行するものとし、各教育事務所長は実施計画書（様式１）を２期にわけて、三重県教育委員会文化課長に提出する。

(2) 文化財パトロールは、三重県教育委員会が任命した三重県文化財調査員が、前項実施計画書に基づき、実施する。

(3) 三重県文化財調査員は、文化財パトロール実施報告書（様式２）を毎月末までに各教育事務所長に提出し、各教育事務所長は、とりまとめて翌月１０日までに文化課長に提出する※なお、緊急事態が発生した場合は、電話その他の方法により、すみやかに関係教育事務所に報告する。

※（その写しを関係市町村教育委員会へも送付）

(4) 各教育事務所長は、緊急事態の状況に応じて、文化課長及び関係市町村教育委員会に連絡する。

(5) 文化課長は、前項の状況により、早急に文化財パトロールカーを出動させ、文化財の保護対策を講じる。

(6) 事業の執行にかかる経費は、２期にわけて予算を令達する。各教育事務所長は、全事業終了後、すみやかに実績報告書（様式３）を文化課長に提出する。

（昭和５８年４月２日までに）

(7) その他必要な事項は、そのつど文化課長が指示する。

〈様式 1……B 5 判〉

文化財パトロール
実施計画書

昭和　年　月　日
（　　～　　）
昭和　年　月　日

月　日	調査員名	パトロール地区	内　容	備　考

〈様式 2……B 5 判〉

文化財パトロール実施報告書

経　由	昭和　年　月　日 教育事務所	所長印	
文化財 パトロール地区 調査年月日 調査員			

	文化財の名称	所在地	調査事項
報告事項			※ 裏面に、問題箇所、見取図、写真等記入のこと。
備　考			

〈様式3……B5判〉

昭和　　年度　文化財パトロール事業実績報告

昭和　　年　　月　　日付け第　　号で事業施行の通知のあった文化財パトロールの実績について、下記の通り報告します。

記

1. 文化財パトロールの実績

月　日	調査員	パトロール地区	備考

2. 支出明細書

項目	令達額	支出額	内訳
			※ 旅費については、行き先、回数を明記すること。

付〔４〕　〔昭和５７年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項〕

1. 目　　的

埋蔵文化財の発掘調査および保存についての専門的知識と技術の習得につとめようとする者を、県外の埋蔵文化財関係研究機関に派遣し研修を受けさせるとともに、県内においても現地研修し、埋蔵文化財の保護体制の強化に資することを目的とする。

2. 主　　催

三重県教育委員会

3. 期　　間

昭和57年4月1日から昭和58年3月31日まで

県外研修　　3カ月

県内研修　　9カ月

4. 場　　所

県外　奈良市佐紀町　奈良国立文化財研究所
埋蔵文化財センター他

県内　緊急発掘調査現場

5. 人　　員

若干名

6. 参加資格

県内の小中高校の教職員のうちで、考古学、歴史学に造けいが深く、発掘調査の経験を有する者

7. 研修内容

(1) 講　　義

総論　○文化財の保護

各論　○文化財保護法

○史跡、埋蔵文化財保護の現状

○発掘調査方法

調査計画、墳墓、集落、生産所、窯、宮殿官衙寺院跡の調査

○遺物調査方法

実測原理、土器、土製品、石器、木製品、瓦の観察と整理、人骨、植物遺体の調査

○関係学概説

建築構造、測量、保存科学、文献史学

○報告書作成方法

(2) 実習　○発掘技術実習、測量実習、遺跡実測実習、写真撮影実習、遺物保存処理実習

8. 講　　師

奈良国立文化財研究所技官、県係員他

9. そ の 他

(1) 研修参加者の旅費は、県外県内とも県の規程にしたがって支給する。

(2) 研修期間中は、当該学校に対し臨時教員が補充される。

(3) 研修を修了した者には、修了証書を交付する。

付〔5〕　埋蔵文化財発掘通知・届出一覧表

〔法57条の2による届出〕（11件）

遺跡名	所在地	事業名	面積	届出者	受付年月日
新晴遺跡	員弁郡東員町長深字西林3612他	農村総合整備モデル事業	500㎡	東員地区土地改良区理事長	57・7・10
新晴道進遺跡	〃　〃　〃字元敷2375他	〃	6000	東員地区土地改良区理事長	57・10・4
野呂氏館	安芸郡芸濃町椋本字殿町	宅地造成	326	個人	58・3・17
野呂氏館	〃　〃　〃　〃	宅地造成	713	個人	58・3・17
西世古遺跡	一志郡一志町大字中世古1278他	圃場整備	1956	大仰石橋土地改良区理事長	57・12・20
河田古墳群	多気郡多気町大字河田字東谷	山砂利採取	1500	個人	57・9・24
大藪遺跡	伊勢市磯町字大藪1563他	鉄塔建設	15615	中部電力（KK）津支店長	57・6・22
中郷遺跡	〃　上地町字中御前	宅地造成	880	個人	58・3・16
白浜貝塚	鳥羽市浦村町字白浜1826−1他	駐車場造成	820	志摩東京カウンティ鳥羽事業所長	57・9・1
宮田氏城	阿山郡阿山町大字丸柱字南出	宅地および工場用地	250	個人	57・6・11
深山氏堡・奥出11、12号墳	名張市夏見字奥出	資財置場	4326	個人	57・4・30

〔法57条の3による通知〕（32件）

遺跡名	所在地	事業名	面積	通知者	受付年月日
頃末遺跡	員弁郡藤原町大字山口8−2他	水路建設	1335	水資源開発公団三重用水建設所長	57・5・21
大久保遺跡	三重郡菰野町大字潤田字大久保他	道路新設	5280	菰野町長	57・9・1
大久保遺跡	〃	町道建設	5280	〃	57・10・30
起A遺跡	鈴鹿市安塚町字起	県営圃場整備事業	2150	三重県知事	57・6・11
三宅西条城	〃　三宅町字西条2286他	国道306号改良	1000	〃	57・5・1
野呂氏館	安芸郡芸濃町椋本	地域改善設備事業	558	芸濃町長	58・2・24
前田遺跡	〃　安濃町中川字庵の下232−1	一般農道	920	三重県知事	57・6・11
浄土寺西遺跡	〃　〃　浄土寺字ジゾウ117−1他	県営圃場整備事業	775	〃	57・6・11
井戸A遺跡	津市片田井戸町字志保366他	河川改修	500	〃	57・9・17
宮間戸遺跡	〃　雲出長常町字宮間戸410他	県営圃場整備事業	1900	〃	57・9・16
久米貝塚久米城、中の前遺跡	一志郡三雲村大字久米	団体営圃場整備事業	128	三雲村長	57・9・24
大角遺跡	〃　白山町大字川口字大角680−2他	中学校武道館新築工事	4608	白山町長	57・9・9
岩脇C遺跡	〃　〃　大字川口2108他	県営圃場整備事業	600	三重県知事	57・9・16

遺跡名	所在地	事業名	面積	通知者	受付年月日
大谷広遺跡	〃 〃 大字二本木字大谷広296他	小学校体育館新築	9903㎡	白山町長	57・12・16
出間遺跡	松阪市出間町字ヲバ453他	県営圃場整備事業	1500	三重県知事	57・9・16
下田遺跡	多気郡勢和村下出江字下田614他	県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	600	〃	57・9・4
麻績神社西方遺跡	〃 明和町中海字六ノ坪317他	県営圃場整備事業	600	〃	57・6・11
愛場遺跡	〃 〃 池村	〃	900	〃	57・6・11
西村遺跡	〃 〃 〃	〃	1480	〃	57・6・11
発シB遺跡	〃 〃 有爾中字発シ1009他	修正小学校移転改築工事	1000	明和町教育長	57・5・21
小姫塚遺跡	度会郡度会町棚橋字宮ノ西	土砂採取	991	個人	57・5・6
田丸城	〃 玉城町114−1	町郷土資料館建設	594	玉城町長	57・6・15
植松遺跡	〃 〃	小学校校舎建築	1200	〃	57・8・3
樋ノ谷遺跡	〃 大宮町神原字樋ノ谷	畜産環境整備事業	1500	三重県知事	57・10・19
塚の上A遺跡	伊勢市円座町字塚の上	県営圃場整備事業	1425	〃	57・6・11
歌野遺跡	阿山郡大山田村広瀬字歌野304	県営圃場整備事業 県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	470	〃	57・9・4
広瀬遺跡	〃 〃 〃 字田中726−1他	県営圃場整備事業	600	〃	57・6・11
辻垣内、上東遺跡	名張市赤目町柏原55他	県営圃場整備事業	5000	〃	57・9・16
赤目檀遺跡	〃 〃 檀98−1	学校建築	500	名張市長	57・5・10
深ケ遺跡	〃 滝之原字深ケ1029	小学校敷地造成	160	〃	58・1・11
辻堂遺跡	〃 安部田字辻堂4100	集団農区総合整備事業	200	名張市遺跡調査会長	58・2・10
沢の代遺跡	〃 赤目町丈六	給水装置付設	205	名張市教育長	58・2・24

〔法98条の2による通知〕（29件）

遺跡名	所在地	事業名	面積	通知者	受付年月日
新晴遺跡	員弁郡東員町長深字西林3612他	農村総合モデル事業	500㎡	東員町教育長	57・7・10
新晴道進遺跡	〃 〃 〃 字元敷2375他	〃	6000	〃	57・10・14
山田廃寺	〃 〃 山田1600	町武道館新築工事	595	〃	57・9・8
大久保遺跡	三重郡菰野町大字潤田字大久保他	道路新設	5280	菰野町教育長	57・9・1
起A遺跡	鈴鹿市安塚町字起	県営圃場整備事業	2150	三重県教育長	57・6・11
三宅西条城	〃 三宅町字西条	国道306号線改良工事	300	〃	57・11・26
上野城	安芸郡河芸町	相撲場建設	50	河芸町教育長	57・7・27

遺跡名	所在地	事業名	面積	通知者	受付年月日
野呂氏館	安芸郡芸濃町椋本字殿町388−4 388−6	椋本殿町地区道路新設	320	芸濃町教育長	58・2・24
浄土寺西遺跡	〃 安濃町浄土寺	県営圃場整備事業	775	三重県教育長	57・6・11
前田遺跡	〃 〃 前田	一般農道	920	〃	57・6・11
井戸A遺跡	津市片田井戸町字志保366 他	二級河川岩田川災害関連河川改修	500	〃	58・1・28
大谷広遺跡	一志郡白山町大字二本木字大谷広296他	大三小学校体育館新築工事	9903	白山町長	57・12・16
大角遺跡	〃 〃 大字川口字大角680−2	中学校武道館新築工事	460.8	〃	57・9・9
西世古遺跡	〃 一志町大字中世古1278 他	圃場整備事業	1956	大仰石橋土地改良区理事長	57・12・20
草山遺跡	松阪市久保町字草山1150−3 他	団地造成	7500	松阪市教育長	57・4・8
河田古墳群	多気郡多気町大字河田字東谷1368〜1370	山砂利採取	1500	多気町長	57・9・24
麻績神社西方遺跡	〃 明和町	県営圃場整備事業	600	三重県教育長	57・6・11
愛場遺跡	〃 〃 池村	〃	900	〃	57・6・11
西村遺跡	〃 〃 〃	〃	1480	〃	57・6・11
発シB遺跡	〃 〃 有爾中字発シ1009 他	修正小学校移転改築工事	1000	明和町教育長	57・5・21
大藪遺跡	伊勢市磯町字大藪1563 他	鉄塔建設	156.25	伊勢市教育長	57・6・22
塚の上A遺跡	〃 円座町字塚の上	県営圃場整備事業	1425	三重県教育長	57・6・11
中郷遺跡	〃 上地町字中畑前514 他	宅地造成	880	伊勢市教育長	58・3・16
才良遺跡	上野市才良800 他	学校建築	5000	上野市教育長	57・4・20
下郡遺跡	〃 下郡字下代	集落移転	1000	〃	57・5・19
西明寺遺跡	〃 西明寺字西明寺3212 他	重要遺跡確認	1300	〃	57・11・5
守田遺跡	〃 守田町	圃場整備事業	40	〃	58・1・14
広瀬遺跡	阿山郡大山田村	県営圃場整備事業	600	三重県教育長	57・6・11
深ケ遺跡	名張市滝之原字深ケ1029	滝之原小学校校舎改築	160	名張市遺跡調査会長	58・1・11

付〔６〕　三重県埋蔵文化財認定通知物件（昭和５７年１月～１２月）

物件名	認定日	出土地	出土年月日	発見者	土地所有者	保管場所
高杯片　６点 須恵器片　１５点 土師器片　４点 土師器 中世土器片　７点 土錘　５点	57. 6.24	北牟婁郡海山町大字 白浦９８番地の２	57. 5. 22	県文化財調査員 伊藤良	白浦漁業 協同組合	海山町郷土 資料館
井戸枠　一括 土器　５４箱	57.11.10	多気郡明和町大字 有爾中字垣場	57. 9. 20	明和町教育委員 会教育長 永野由太郎	明和町	明和町立中 央公民館